

講 義 概 要

2022 年度
(34・35期生)



慈 恵 柏 看 護 専 門 学 校

講 義 概 要

2022 年度
(34・35期生)



慈 恵 柏 看 護 専 門 学 校

目 次

I. 教育課程

1. 教育理念・目的・目標	5
2. 主要概念の定義	5
3. 教育課程構造図	6
4. 教育課程関連図	7
5. 科目の構成	8
6. 学科進度表	11

II. 学年別講義概要

2 年次（3 5 期生）

基礎分野—人間と生活・社会の理解	17
専門基礎分野—疾病の成り立ちと回復の促進	23
健康支援と社会保障制度	27
専門分野Ⅰ—基礎看護学	31
専門分野Ⅱ—成人看護学	35
老年看護学	43
小児看護学	49
母性看護学	55
精神看護学	61
統合分野—在宅看護論	65
看護の統合と実践	71

3 年次（3 4 期生）

基礎分野—人間と生活・社会の理解	77
専門基礎分野—健康支援と社会保障制度	81
統合分野—看護の統合と実践	85

III. 臨地実習講義概要 93

I. 教 育 課 程

1. 教育理念・目的・目標

教育理念

本校は、明治18年 創設者高木兼寛がナイチンゲール看護婦学校に範を得て「つねに人びとの幸を願いそのために献身する」という慈恵の精神に基づき、看護教育を開始したわが国最初の看護師教育機関を礎としています。以後、一貫して社会に貢献できる看護実践者を育成しています。

教育にあたっては、専門職として必要な知識・技術を身につけ、教育所開設当初より大切にしてきた、品位、礼儀、辞讓、温和な態度で対象である人間を尊重した看護を実践できる看護師を育成します。

慈恵の看護教育を受けた看護師は社会のニーズに応じて医療施設のみならず在宅および保健福祉分野に貢献できる専門職として人々の健康に寄与しています。

教育目的

本校は学校教育法及び保健師助産師看護師法に基づき看護に関する専門教育を行い、 人格の涵養に努め、社会に貢献しうる有能な看護師を育成することを目的とする。

教育目標

- 1) 人間の存在を尊重し、人間の理解を深めるための能力を養う
- 2) あらゆる人々の健康状態に対応した看護を実践する基礎的能力を養う
- 3) 保健・医療・福祉を総合的に理解し、看護の主体性を発揮する能力を養う
- 4) 豊かな人間性を養い、社会人として良識ある態度が形成できる
- 5) 専門職業人として、看護を探究する姿勢を養う

2. 主要概念の定義

慈恵の看護専門学校は、看護、人間、健康、環境を次のように捉えます。

看護とは、「その人の生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることである」というナイチンゲールの提唱する看護に基づき、あらゆる人びとの成長と発達、健康の状態に応じて、自立を助け、その人らしく日常生活が営めるように援助する活動です。

看護は、人間関係を基盤とし、その対象に応じて教育的機能や相談・支持的機能・調整的機能を持ちます。

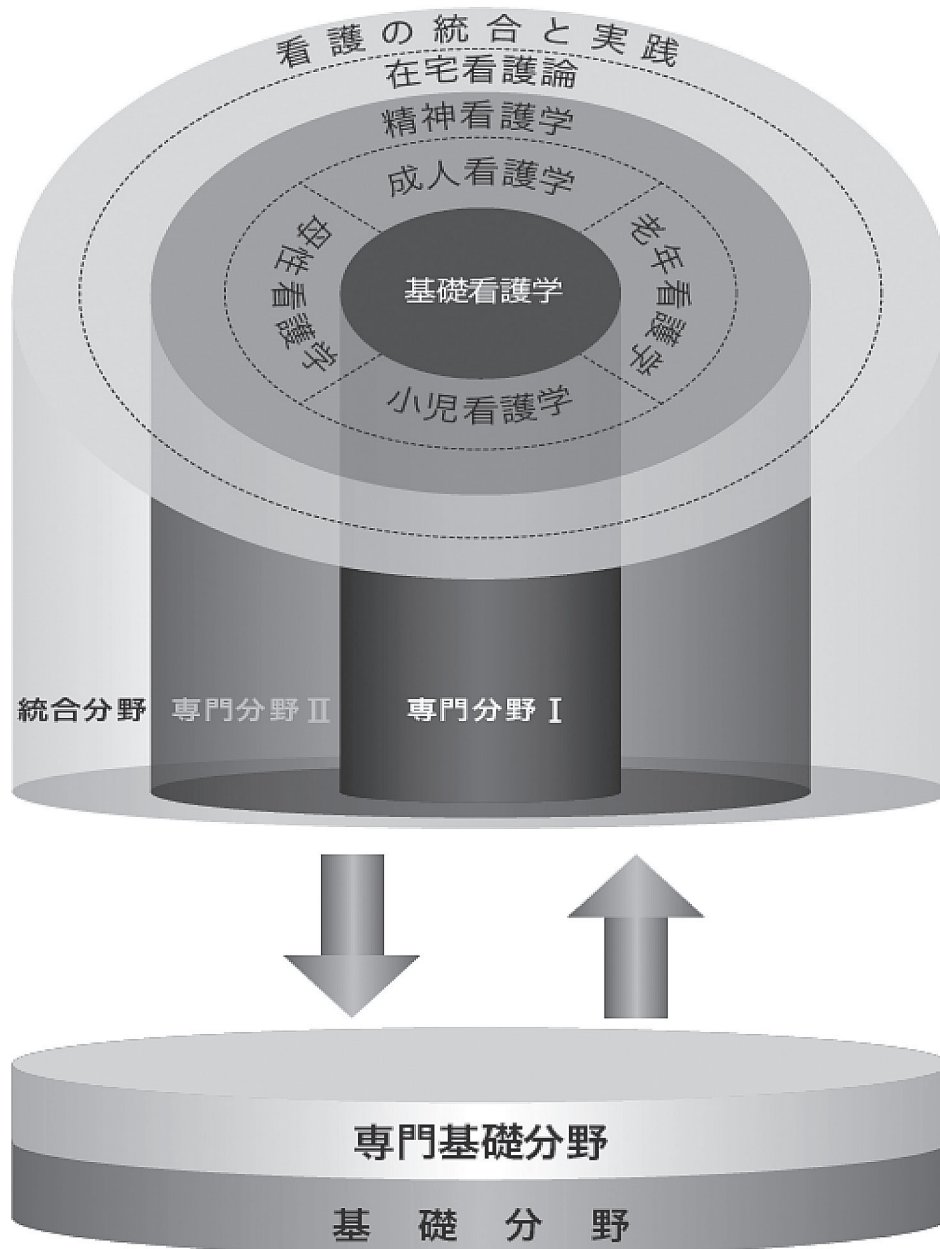
人間とは、基本的人権を有し尊重される存在です。人間は、受精から死ぬまでの生命現象をもち、身体的・精神的・社会的・霊的に統合され、成長しつづける存在です。

健康とは、身体的・精神的・社会的に調和がとれている状態です。健康は基本的権利の一つであり、個人のQOLに影響を与えるものです。健康のありようは流動的かつ連続的なもので、個人の価値観に基づいて自らが創り出していくものです。

環境は、人間を取り巻くすべてをさし、つねに相互に関連しあい、人間の成長・発達や健康に影響を及ぼしています。人間もまたその環境の一部です。

3. 教育課程構造図

本校の教育目的・目標に基づき構築されたカリキュラムの大枠を構造図・関連図で示した。
学習の確認や今後の学習の方向性を見出していけるように活用する。



教育課程構造図は各分野が相互に関連し、影響しあっていることを示している。

- ① 基礎分野と専門基礎分野は、専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ・統合分野を学ぶ上で土台となる。
- ② 専門分野Ⅰの基礎看護学は、看護を展開する上での核となる。
- ③ 専門分野Ⅱは成人看護学・老年看護学・小児看護学・母性看護学・精神看護学である。精神看護学は、成人看護学・老年看護学・小児看護学・母性看護学のすべての領域に関連していくものであると同時に独立した看護学である。
- ④ 統合分野の在宅看護論は、専門分野Ⅰ・Ⅱのすべての分野に関連しているものである。
- ⑤ 統合分野の看護の統合と実践は、専門分野Ⅰ・Ⅱおよび在宅看護論を統合し、看護基礎教育と卒後教育の橋渡しとなる。

4.教育課程関連図

3年次	統合分野 看護の統合と実践：看護管理・災害看護と国際看護・看護研究の実際 統合実習 在宅看護論：在宅看護論実習 専門分野Ⅱ 精神看護学：精神看護学実習 母性看護学：母性看護学実習 小児看護学：小児看護学実習 老年看護学：老年看護学実習2 成人看護学：成人看護学実習2・3	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度： 保健師助産師看護師法 基礎分野 人間と生活・社会の理解：倫理学
2年次	統合分野 看護の統合と実践：医療安全と看護技術 在宅看護論：在宅看護方法論1・2・3 専門分野Ⅱ 精神看護学：精神看護学方法論1・2 母性看護学：母性看護学方法論1・2・3 小児看護学：小児看護学方法論1・2・3 老年看護学：老年看護学方法論2・3 老年看護学実習1 成人看護学：成人臨床看護・成人看護学方法論1・2・3・4 成人看護学実習1 専門分野Ⅰ 基礎看護学：臨床看護総論・看護研究 基礎看護学実習2	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度： 公衆衛生学・社会福祉・関係法規 疾病の成り立ちと回復の促進：病態学5 基礎分野 人間と生活・社会の理解：看護英語・教育学・文化人類学 人間関係論2（自己開発）
1年次	統合分野 在宅看護論：在宅看護概論 専門分野Ⅱ 精神看護学：精神看護学概論1・2 母性看護学：母性看護学概論 小児看護学：小児看護学概論 老年看護学：老年看護学概論・老年看護学方法論1 成人看護学：成人看護学概論 専門分野Ⅰ 基礎看護学：看護学概論・看護理論・ 看護援助論1・2・3・4・看護援助方法論1・2 基礎看護学実習1	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度：健康生活支援・食生活支援 疾病の成り立ちと回復の促進：病理学・治療論・ 病態学1・2・3・4・薬理学・微生物学・生化学 人体の構造と機能：人体の構造と機能1・2・3・4・5 基礎分野 人間と生活・社会の理解：国文学（日本語表現法）・基礎英会話・心理学 社会学・人間関係論1（対人関係） 科学的思考の基盤：自然科学（物理学・化学・生物学） 情報科学・論理学
	専門分野Ⅰ・Ⅱ・統合分野 基礎分野・専門基礎分野	

教育課程関連図は3年間で修得すべき能力を養う為に必要な学習の順序性を表し、学習を積み重ねていくことにより、看護の本質に迫り、成長していくことを示している。

① 各年次毎に学習する科目と各科目が相互に影響し合うことを示している。

② 1年次では基礎分野・専門基礎分野を多く学び、年次が上がる毎に専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ・統合分野の学習が多くなることを示している。

5. 科目の構成

指定規則の教育内容		授 業 科 目	単位数	時間数	担当教員等 の実務経験
基 礎 分 野	科学的思考の基盤	自然科学（物理学、化学、生物学）	1	30	----
		情報科学	1	30	----
		論理学	1	15	----
	人間と生活・社会の理解	国文学（日本語表現法）	1	30	----
		基礎英会話	1	30	----
		看護英語	1	30	----
		心理学	1	30	----
		教育学	1	30	----
		文化人類学	1	15	----
		社会学	1	30	----
		倫理学	1	30	----
		人間関係論 1（対人関係）	1	30	----
		人間関係論 2（自己開発）	1	30	----
	小計		13	360	
専 門 基 礎 分 野	人体の構造と機能	人体の構造と機能 1	1	30	----
		人体の構造と機能 2（消化・呼吸）	1	15	----
		人体の構造と機能 3（呼吸・循環・体温）	1	30	----
		人体の構造と機能 4（内分泌・腎・泌尿器、生殖器）	1	30	----
		人体の構造と機能 5（脳・神経、感覚器）	1	15	----
	疾病の成り立ちと 回復の促進	病理学	1	15	----
		治療論	1	30	----
		病態学 1（消化器、歯・口腔、造血器）	1	30	----
		病態学 2（循環器、内分泌・代謝）	1	30	----
		病態学 3（呼吸器、耳鼻咽喉、眼、皮膚）	1	30	----
		病態学 4（膠原病・アレルギー、感染症、腎・泌尿器、生殖器）	1	30	----
		病態学 5（脳神経、運動器、女性生殖器）	1	30	----
		薬理学	1	30	----
		微生物学	1	30	----
		生化学	1	30	----
	健康支援と社会保障制度	健康生活支援	1	15	----
		食生活支援	1	15	----
		公衆衛生学	1	30	----
		社会福祉	1	30	----
		関係法規	1	15	----
		保健師助産師看護師法	1	15	----
	小計		21	525	

指定規則の教育内容		授 業 科 目	単位数	時間数	担当教員等 の実務経験
専 門 分 野 Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	30	○
		看護理論	1	15	○
		看護研究	1	15	○
		看護援助論 1（看護技術の基本）	1	30	○
		看護援助論 2（日常生活の援助1）	1	30	○
		看護援助論 3（日常生活の援助2）	1	30	○
		看護援助論 4（診療の補助技術）	1	30	○
		臨床看護総論	1	30	○
		看護援助方法論 1（看護技術の基本、日常生活の援助1）	1	45	○
		看護援助方法論 2（日常生活の援助2、診療の補助技術）	1	45	○
	臨地実習	基礎看護学実習 1	1	45	○
		基礎看護学実習 2	2	90	○
小計			13	435	
専 門 分 野 Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1	15	○
		成人臨床看護	1	30	○
		成人看護学方法論 1 （呼吸機能障害・循環機能障害をもつ成人の看護）	1	30	○
		成人看護学方法論 2 （肝機能障害・糖代謝障害・腎機能障害をもつ成人の看護）	1	30	○
		成人看護学方法論 3 （消化吸収障害・排泄機能障害をもつ成人の看護、健康障害のある成人の看護過程の展開）	1	30	○
		成人看護学方法論 4 （脳神経障害・運動機能障害・女性生殖機能障害をもつ成人の看護）	1	30	○
		老年看護学	老年看護学概論	1	15
	老年看護学方法論 1（高齢者の日常生活と看護）		1	30	○
	老年看護学方法論 2（高齢者の機能障害の理解と看護）		1	30	○
	老年看護学方法論 3（高齢者の健康障害の理解と看護）		1	30	○
	小児看護学	小児看護学概論	1	30	○
		小児看護学方法論 1（子どもの健康の保持増進）	1	15	○
		小児看護学方法論 2（健康障害をもつ子どもの看護）	1	30	○
		小児看護学方法論 3（さまざまな状況にある子どもの看護）	1	30	○
	母性看護学	母性看護学概論	1	15	○
		母性看護学方法論 1（妊産婦の看護）	1	30	○
		母性看護学方法論 2（新生児の看護・妊産婦の異常と看護）	1	30	○
		母性看護学方法論 3（褥婦の看護、褥婦の異常・看護）	1	30	○
	精神看護学	精神看護学概論 1（精神保健）	1	30	○
		精神看護学概論 2（精神看護の対象）	1	15	○
		精神看護学方法論 1（精神疾患の治療と看護）	1	30	○
		精神看護学方法論 2（精神看護の技術）	1	30	○

指定規則の教育内容		授 業 科 目	単位数	時間数	担当教員等の実務経験
専 門 分 野 Ⅱ	臨地実習	成人看護学実習 1	2	90	○
		成人看護学実習 2	2	90	○
		成人看護学実習 3	2	90	○
		老年看護学実習 1	2	90	○
		老年看護学実習 2	2	90	○
		小児看護学実習	2	90	○
		母性看護学実習	2	90	○
		精神看護学実習	2	90	○
	小計		38	1305	
統 合 分 野	在宅看護論	在宅看護概論	1	15	○
		在宅看護方法論 1（地域で生活している人への支援）	1	30	○
		在宅看護方法論 2（在宅で療養する人の看護）	1	30	○
		在宅看護方法論 3（在宅で医療管理を必要とする人の看護）	1	30	○
	看護の統合と実践	看護管理	1	15	○
		災害看護と国際看護	1	30	○
		医療安全と看護技術	1	30	○
		看護研究の実際	1	15	○
	臨地実習	在宅看護論実習	2	90	○
統合実習		2	90	○	
小計		12	375		
合計			97	3000	

○ 実務経験のある教員等による授業科目の配置について

「５．科目の構成」で示された専門分野Ⅰ（小計13単位 435時間）、専門分野Ⅱ（小計38単位 1305時間）、及び統合分野（小計12単位 375時間）における授業科目（合計63単位 2115時間）は、看護師等の実務経験を有している教員が講義・実習を担当している。

6.学科進度表

指定規則の教育内容分野		授業科目名	単位数	時間数	1年次										2年次										3年次									
					4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	9	10	11	12
基礎分野	科学的思考の基盤	自然科学(物理学、化学、生物学)	1	30																														
		情報科学	1	30																														
	人間と生活・社会の理解	論理学	1	15																														
		国文学(日本語表現法)	1	30																														
		基礎英会話	1	30																														
		看護英語	1	30																														
		心理学	1	30																														
		教育学	1	30																														
		文化人類学	1	15																														
		社会学	1	30																														
倫理学	1	30																																
人間関係論1(対人関係)	1	30																																
人間関係論2(自己開発)	1	30																																
小計		13	360																															
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造と機能1	1	30																														
		人体の構造と機能2(消化・吸収)	1	15																														
		人体の構造と機能3(呼吸・循環・体温)	1	30																														
		人体の構造と機能4(内分泌・腎・泌尿器、生殖器)	1	30																														
		人体の構造と機能5(脳・神経、感覚器)	1	15																														
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	15																														
		治療論	1	30																														
		病態学1(消化器、歯・口腔、造血器)	1	30																														
		病態学2(循環器、内分泌・代謝)	1	30																														
		病態学3(呼吸器、耳鼻咽喉、眼、皮膚)	1	30																														
		病態学4(膠原病・アレルギー、感染症、腎・泌尿器、生殖器)	1	30																														
		病態学5(脳神経、運動器、女性生殖器)	1	30																														
		薬理学	1	30																														
		微生物学	1	30																														
		生化学	1	30																														
	健康支援と社会保障制度	健康生活支援	1	15																														
		食生活支援	1	15																														
		公衆衛生学	1	30																														
		社会福祉	1	30																														
		関係法規	1	15																														
保健師助産師看護師法	1	15																																
小計		21	525																															
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	30																														
		看護理論	1	15																														
		看護研究	1	15																														
		看護援助論1(看護技術の基本)	1	30																														
		看護援助論2(日常生活の援助1)	1	30																														

Ⅱ. 学年別講義概要

2 年 次

(35期生)

基 礎 分 野

1. 考え方

基礎分野は、専門基礎分野と共に専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ・統合分野を支える学問領域である。

ここでは、「科学的思考の基盤」「人間と生活・社会の理解」を学ぶ。

そのために、人間愛および生命の尊厳を基盤とした人間と生活の理解に加え、科学的・論理的思考を育成し、国際化や情報化社会への対応能力を高め、成長発達に伴う変化や教育、世界各国の文化・社会・価値観を学び、人間と社会の関わりを理解する。

従って、基礎分野での学びをとおして、看護を学ぶための資質を培い、豊かな感性に育まれた主体性のある学生の人間形成に寄与することをねらいとする。

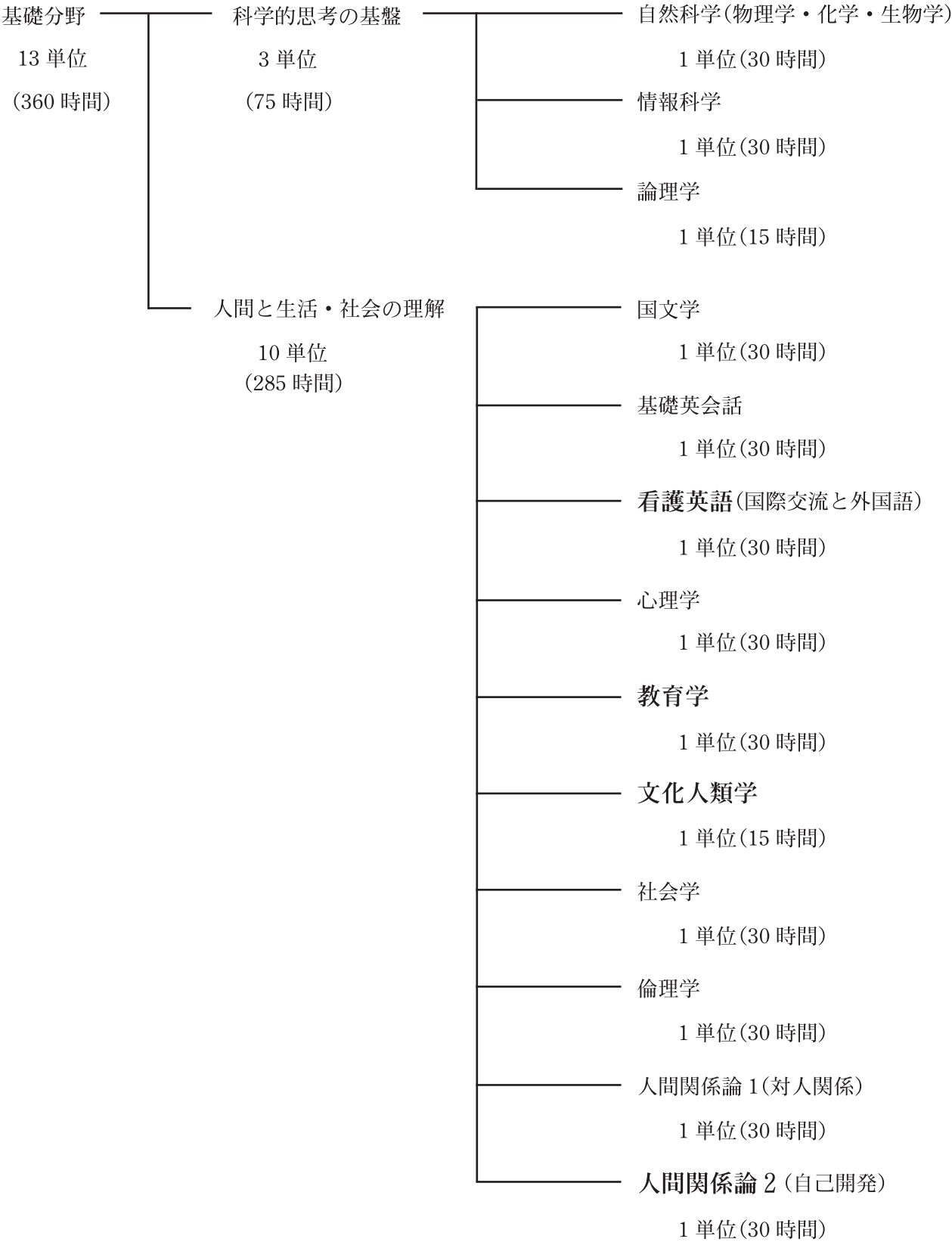
2. 目的

- 1) 科学的・論理的思考の基盤を養い、自ら学習する能力を育てる。
- 2) 人間と生活・社会を理解し、豊かな感性と共に自らが人間として成長する基盤を養う。

3. 目標

- 1) 看護に応用できる科学的思考の基盤を理解する。
- 2) 国際化・情報化社会に対応できる能力を養う。
- 3) 論理的思考の基盤を養う。
- 4) 人間の成長発達に伴う変化、教育の意義を理解する。
- 5) 世界の文化、社会、価値観を理解する。
- 6) 日本の社会、家族を理解する。
- 7) 生命の尊厳、人権を理解する。
- 8) 人間関係の基礎的理論を学び、自己理解を深める。

4. 基礎分野の構成



人間と生活・社会の理解

看護英語 (国際交流と外国語)		開講時期	4月 ～9月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		栗岩 愛					
科目目標		1. 医療や看護の現場で役立つ英会話を通して、実践的な英語表現や英単語を習得することを目標とし、国際化社会に対応できる能力を養う。 2. グローバル社会の中で看護職として活躍するためには、さまざまな国の人との交流を通して相手の文化的背景を理解しながらコミュニケーションを深める経験が必要である。将来、どのような文化的背景をもった人に対しても多様性を配慮した看護を実践できる国際感覚を身につけることを目指す。					
回数	講師名	講義内容					
1	栗岩 愛	【看護英語】					
2		使用するテキスト「新20ヘルスケア・ダイアログズ」は、病院で働く人々にとって役立つ内容で構成されています。まず、医療現場で必要な会話文に取り組み、次にその発展問題や練習問題などで繰り返し学ぶことによって、理解を深め応用できるようになることを目指します。医療関係の基本用語の中には馴染みのない語や聞き取りも難しい語があるかもしれませんが、リスニングやライティングなどの様々な活動を通して、実践できる応用力につなげていってほしいと思います。					
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10	山岸 民千世	【国際交流】 外国人市民の声を知ろう「みんな違ってみんないい」～多文化共生社会					
11	リアン 岡田	在住外国人の日常生活支援を知ろう！（英語 — English） — Let's know the daily life support of foreign residents ！					
12	榎園 美愛	在住外国人の日常生活支援を知ろう！（韓国語 — 한국어） — 거주 외국인의 일상생활 지원을 알자 ！					
13	藤上 理奈	在住外国人の日常生活支援を知ろう！（中国語 — 中文） — 知道居住外國人的日常生活支援！					
14							
15							
使用テキスト 新20ヘルスケア・ダイアログズ 鷹書房弓プレス 必要に応じて資料を配布する。							
評価方法 試験、小テスト、グループワーク、授業の参加状況 等							

人間と生活・社会の理解

教育学		開講時期	10月 ～ 2月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		渡邊 綾					
科目目標		1. 教育に関する基礎的知識を習得する。とくに学校・家庭・社会における教育機関の多様性について理解する。 2. 現代的な教育課題を把握し、解決に向けた思考を実践する。					
回数	講師名	講義内容					
1	渡邊 綾	第1回 ガイダンス／教育とはどのような営みか					
2		第2回 教育の組織化－学校の歴史①					
3		第3回 教育の組織化－学校の歴史②					
4		第4回 学びの場－家庭と学校					
5		第5回 教授一人を教えるということ					
6		第6回 子どもの貧困と教育支援①					
7		第7回 子どもの貧困と教育支援②					
8		第8回 外国につながる子どもたちと学校教育①					
9		第9回 外国につながる子どもたちと学校教育②					
10		第10回 教育の継続①（学校間の移行）					
11		第11回 教育の継続②（学校から仕事への移行）					
12		第12回 特別ニーズ教育・インクルーシブ教育					
13		第13回 ジェンダー・セクシュアリティと学校教育					
14		第14回 生涯学習					
15		第15回 講義のまとめ					
使用テキスト 資料を配付する。							
評価方法 試験、参加度、授業中のワークシート							

人間と生活・社会の理解

文化人類学		開講時期	4月 ～9月	単位数	1	時間数	15
科目責任者		杉井 純一					
科目目標		国際社会と日本文化・社会・価値観の比較考察					
回数	講師名	講義内容					
1	杉井 純一	グローバル化の時代、日本でも普通の人たちが世界中の人々と日常空間を共にするのが当たり前になっています。本講義では、文化人類学の諸テーマの内、特に生命と宗教をめぐる諸問題に焦点を当てながら、多様な文化を持つ人々との共存について各自が考えていくきっかけを作っていけたらと考えています。 1. 人間と文化 2. 文化人類学と質的研究 3. 個人・家族・コミュニティ 4. 人生と通過儀礼 5. 宗教と世界観 6. 健康・病気・医療 7. 人間と死					
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
使用テキスト 使用しません。							
参考図書 系統看護学講座 基礎分野 文化人類学 波平恵美子編 医学書院							
評価方法 試験							

人間と生活・社会の理解

人間関係論 2 (自己開発)			開講時期	7月 ～12月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		村上 志保						
科目目標		人間関係の基本的理論を土台に、体験を通して自己理解を深め人間関係のあり方を学ぶ。他者との交流の中で、自己を受容することを学び、それによって相手への真の共感が可能になることを体験する。						
回数	講師名	学習形態	講義内容					
1	村上 志保	講義	1. 対人地図					
2		演習	2. フォースド チョイス					
3			3. 流れ星					
4			4. 対話を観る					
5			5. 介入的援助					
6			6. 身体を使ったワーク①					
7			7. 身体を使ったワーク②					
8			8. おもしろレジャーランド					
9			9. 他面鏡					
10			10. 手紙					
11		講義	11. ア行トーク・サイレントトーク・ジェスチャートーク					
12			12. プロセスコンサルタント					
13			13. 敬語について考える					
14			14. 実習のふりかえり					
15			15. 価値観について					
使用テキスト 中井喜美子著 近藤千恵監修 看護ふれあい講座：照林社								
評価方法 参加度・レポート								

専門基礎分野

1. 考え方

専門基礎分野は基礎分野と共に専門分野Ⅰ・専門分野Ⅱ、統合分野である看護学を学ぶ上で土台となる領域である。

ここでは、「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」を学ぶ。

そのために、人体の発生と構成、形態と機能について学び、人間の生命につながる営みである日常生活行動の理解を深める。そこで、人間を生活者として全人的にみつめ、看護の視点から、病的状態に至る過程とその変化に注目し、回復を促進させるメカニズムを理解する。さらに、人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるよう、今日の保健医療福祉の動向と社会保障制度を学び、よりよく生きようとする社会的存在としての人間の理解を深める。

従って、専門基礎分野の学びをとおして、看護のためのアセスメント能力を養うことをねらいとする。

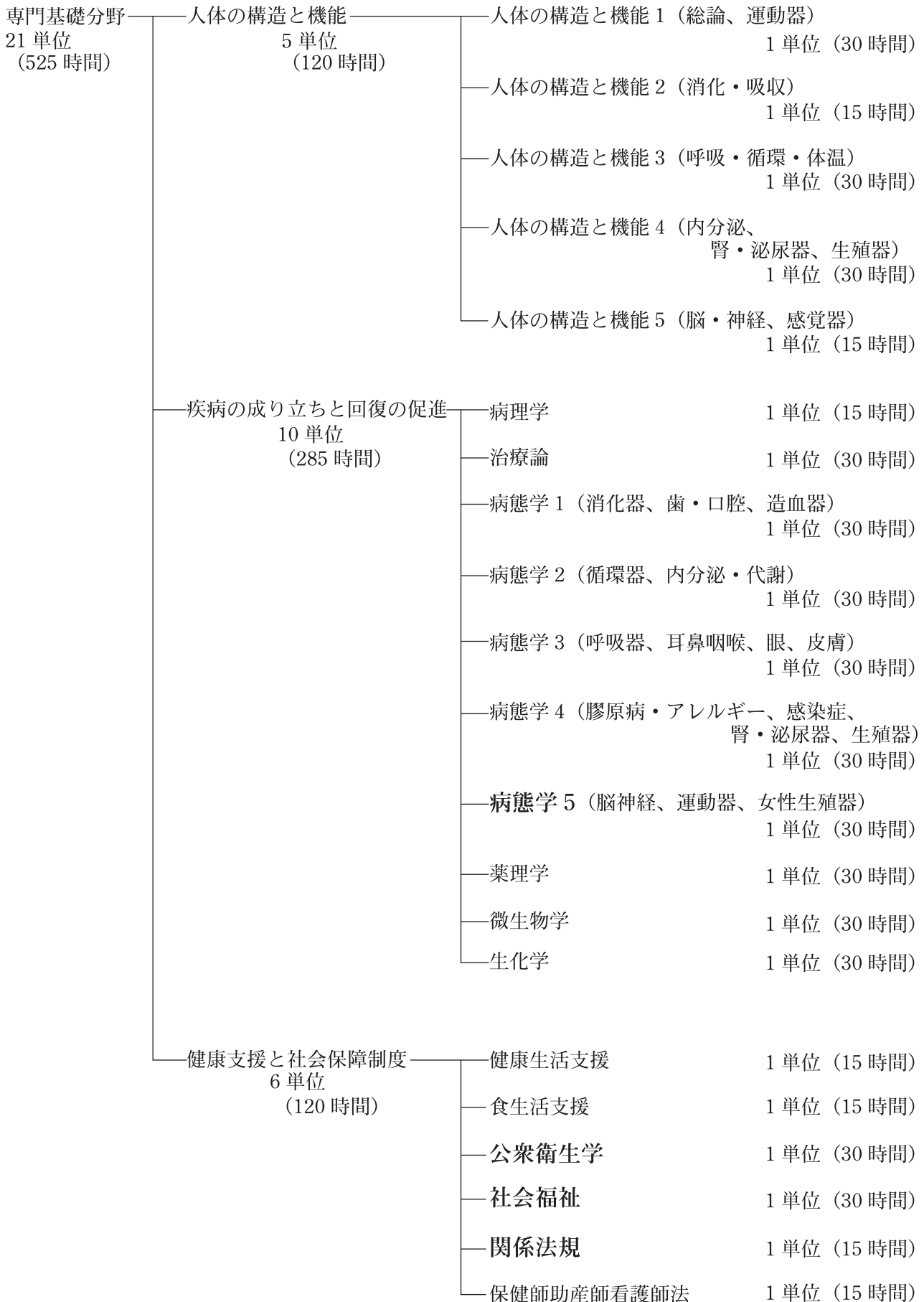
2. 目的

- 1) 日常生活行動を営むための人間の生命現象の基礎を理解する。
- 2) 生活との関連において、健康から疾病にいたる変化のプロセスと回復のメカニズムを理解する。
- 3) 人々の健康や障害の状態に応じた社会保障制度を理解する。

3. 目標

- 1) 人体の発生と構成、形態と機能を理解する。
- 2) 人体の構成成分や代謝を理解する。
- 3) 病因と病変の特徴と、系統別疾患の病態、治療、検査について理解する。
- 4) 薬物の特徴、作用機序、人体への影響を知り、臨床薬理の実際を理解する。
- 5) 微生物の特徴と人体に及ぼす影響を理解する。
- 6) 各栄養素の栄養的意義と臨床栄養の実際を理解する。
- 7) 公衆衛生の諸統計と保健活動を理解する。
- 8) 保健医療福祉の動向・制度を理解する。
- 9) 医療従事者に関する関係法規を知り、医療従事者としての義務と責任を理解する。

4. 専門基礎分野の構成



疾病の成り立ちと回復の促進

病態学 5 (脳神経、運動器、女性生殖器)		開講時期	4月 ～9月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		谷口 洋					
科目目標		1. 脳神経疾患の主な症状と検査、病態と治療を理解する 2. 運動器疾患の主な症状と検査、病態と治療を理解する 3. 女性生殖器疾患の主な症状と検査、病態と治療を理解する					
回数	講師名	講 義 内 容					
1	谷口 洋 作田 健一 宮川 晋治	1. 脳神経疾患の主な症状 1) 意識障害 2) 高次脳機能障害 3) 運動機能障害 4) 感覚機能障害 5) 主な反射性運動の障害 6) 頭蓋内圧亢進症と脳陥入 7) 髄膜刺激症状					
2							
3		2. 脳神経疾患の主な病態と治療 1) 筋疾患 (ミオパチー) 2) 末梢神経疾患 (ニューロパチー) 3) 脊髄疾患 4) 脳梗塞・脳出血 5) 炎症性疾患・感染症 6) 変性疾患 7) 中枢の脱髄疾患 8) 発作性疾患 9) 中毒性疾患					
4							
5							
6	長谷川 譲 栃木 悟 府賀 道康	3. 脳神経疾患の主な検査 1) 神経学的診察 2) 神経生理学的検査 3) 補助診断法 脳波 MR I 脳血管撮影					
7		4. 脳神経外科疾患の主な病態と手術療法 1) 手術療法 (1) 開頭手術 (2) 脳室ドレナージ (含 オンマイヤー) 2) くも膜下出血 3) 頭部外傷 4) 脳腫瘍					
8							

疾病の成り立ちと回復の促進

回数	講師名	講 義 内 容
9	宇高 潤 阿部 敏臣 木島 永二 稲垣 直哉	運動器疾患 1. 運動器疾患の主な症状 1) 疼痛 2) 変形 3) 神経麻痺 4) 運動障害
10		2. 運動器疾患の主な検査 1) 骨密度測定 2) 関節鏡検査 3) 造影検査
11		3. 運動器疾患の主な病態と治療 1) 骨折：大腿骨頸部骨折 2) 関節変形性疾患：変形性股関節症、関節リュウマチ 3) 脊椎の疾患：腰椎椎間板ヘルニア、脊髄損傷 4) 骨腫瘍 5) 治療 (1) 保存療法：牽引、ギプス、副子固定 (2) 手術療法：観血的整復術、人工骨頭置換術 (3) リハビリテーション
12		
13	横須 幸太	女性生殖器 1. 女性生殖器疾患の症状、検査、病態と治療 1) 月経異常 2) 子宮内膜炎 3) 性感染症 4) 不妊症 5) 更年期障害 6) 卵巣がん 7) 子宮がん
14		
15	三宅 亮	8) 乳がん
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（7）脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（10）運動器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（9）女性生殖器 学書院		
評 価 方 法 試験		

健康支援と社会保障制度

公衆衛生学

開講時期

4月
～9月

単位数

1

時間数

30

科目責任者

山崎 彰美

科目目標

人々の健康を守る公衆衛生活動を学ぶ

回数

講師名

講義内容

1

山崎 彰美

1. 健康と公衆衛生
 - 1) 公衆衛生の概念
 - (1) 公衆衛生の領域と活動の特徴
 - (2) プライマリーヘルスケア
 - (3) 国際的な協力と連携
 - 2) 健康と環境
 - (1) 健康の概念
 - (2) 生態学的環境
 - (3) 物理化学的環境
 - (4) 身体的・精神的・心理的環境
 - 3) 疫学的方法による健康の理解
 - (1) 疾病の多発とその要因
 - (2) 疫学調査
2. 健康指標と予防
 - 1) 健康に関連した統計
 - (1) 国勢調査
 - (2) 人口動態
 - (3) 出生
 - (4) 死亡・死因
 - (5) 死産、周産期死亡、乳児死亡
 - (6) 平均余命、平均寿命
 - 2) 感染症とその予防
 - (1) 感染症の成立要因と対策
 - (2) 感染症に関する法律

2

3

4

5

6

白土 健

3. 生活環境の保全
 - 1) 衣・住生活と健康
 - 2) 食生活と健康
 - 3) 地域環境衛生
4. 医療・介護の保障制度
5. 地域保健活動
 - 1) 母子保健
 - 2) 産業保健
 - 3) 学校保健
 - 4) 精神保健福祉
6. 生活習慣病（成人保健）
7. 生活習慣病（老人保健）・難病対策
8. まとめ

7

8

9

10

11

12

13

14

15

使用テキスト

わかりやすい公衆衛生学 ノーベルヒロカワ
国民衛生の動向：厚生統計協会

評価方法

授業課題、試験で評価する

専門基礎分野

健康支援と社会保障制度

社会福祉		開講時期	4月 ～9月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		袴田 洋子					
科目目標		社会福祉に必要な知識、技術の基礎を理解し、現代社会における社会福祉の意義について知る。また、看護者として、どのような援助ができるかを各自で考察する。					
回数	講師名	講義内容					
1	袴田 洋子	1. 社会保障制度と社会福祉 社会保障の制度（概念、目的、機能、体系）とその内容および、社会福祉の法制度について、その歴史的展開を踏まえて学ぶ。					
2							
3		2. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 近年のわが国における社会や経済の変化を理解し、今後の社会保障・社会福祉がどのような方向をめざしているのか、その基本的な動向について、学ぶ。					
4							
5		3. 医療保障 わが国の医療保障制度の特徴を理解するため、どのような経緯で成立してきたのか、その沿革と現在の制度の内容、今後の動向について学ぶ。					
6							
7		4. 介護保障 介護保険制度成立の経緯や現在の制度の概要に加え、今後の課題と展望について学ぶ。					
8							
9		5. 所得保障 所得保障は、所得の得られない人々に対し、現金を給付して所得を保障する制度である。人々の生活を支える所得保障を学ぶことは、たとえば患者の生活背景を知る手がかりにもなる。所得保障制度全体を概観したのち、年金保険、社会手当、労働保険を学ぶ。					
10							
11		6. 公的扶助 生活保護制度を中心に、現代社会における貧困や低所得問題に対応する公的扶助制度について学ぶ。					
12							
13		7. 社会福祉の分野とサービス 高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉の各分野について、その実態と課題を知り、それに対してどのような施策が展開されているかを学ぶ。					
14							
15		8. 社会福祉実践と医療・看護 本章では、援助とはなにかを学ぶ。医療現場、地域社会など多様な現場で展開される社会福祉実践の共通基盤として、どのような場合に援助が必要なのか、どのような援助方法があるのかを理解する。					
使用テキスト							
系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度（3） 社会保障・社会福祉 医学書院							
評価方法							
試験							

健康支援と社会保障制度

関係法規		開講時期	4月 ～9月	単位数	1	時間数	15
科目責任者		柴田 幸治					
科目目標		医療従事者に関する関係法規を理解し、看護師としての義務と責任を学ぶ。					
回数	講師名	講義内容					
1	柴田 幸治	1. 法規を学ぶ意義と法令の読み方					
2		2. 衛生法規 1) 医事法規 国民の医療を確保するため、医療体制の整備、および医師や看護師などの医療関係者の資格や業務、病院などの医療施設の設備・運営などを規定することを目的としている法規について学ぶ。					
3		2) 薬務法規 医薬品・医療用具、その他国民の衛生上必要とする物品の製造・販売・取り扱いなどを規定することを目的としている法規について学ぶ。					
4		3) 保健衛生法規 国民に対して一般的にその健康の保持・増進をはかることを目的としている法規について学ぶ。					
5		4) 予防衛生法規 特定の疾病を予防することを目的としている法規について学ぶ。					
6		5) 環境衛生法規 生活環境の維持・改善を目的としている法規について学ぶ。					
7		3. 福祉関係法規					
8		4. 労働基準法 看護職が労働者として、又、働く者の健康を守る立場として基本的知識を学ぶ。					
使用テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度（4）看護関係法令 医学書院 国民衛生の動向：厚生統計協会							
評価方法 試験							

基礎看護学

1. 考え方

社会は時代と共に変動し、看護に期待する役割も変化している。社会は看護に他職種との連携の中で、人々の心身の健康の保持増進を総合的に求めている。

基礎看護学は、基礎分野・専門基礎分野での学びを基に、看護を展開する上での礎となる科目である。

従ってここでは、基礎分野・専門基礎分野で様々な角度から人間について学び理解を深めている学生に対し、さらに看護の対象としての「人間」理解を十分に深め、広げていく役割を持つ。また、「健康」の概念を理解し、健康の保持増進、回復、安寧な死に向けての保健医療福祉サービスの必要性を理解する。

さらに、看護の役割を遂行する為に必要な基礎的能力を身につける分野としてもとらえ、基礎看護学以外の専門分野の基礎となる看護技術を習得し、応用できる能力を育成する。

そして、日本の看護史の礎である慈恵看護史を学び、看護理論の成立を学ぶ中から、「看護」そのものを理解する。

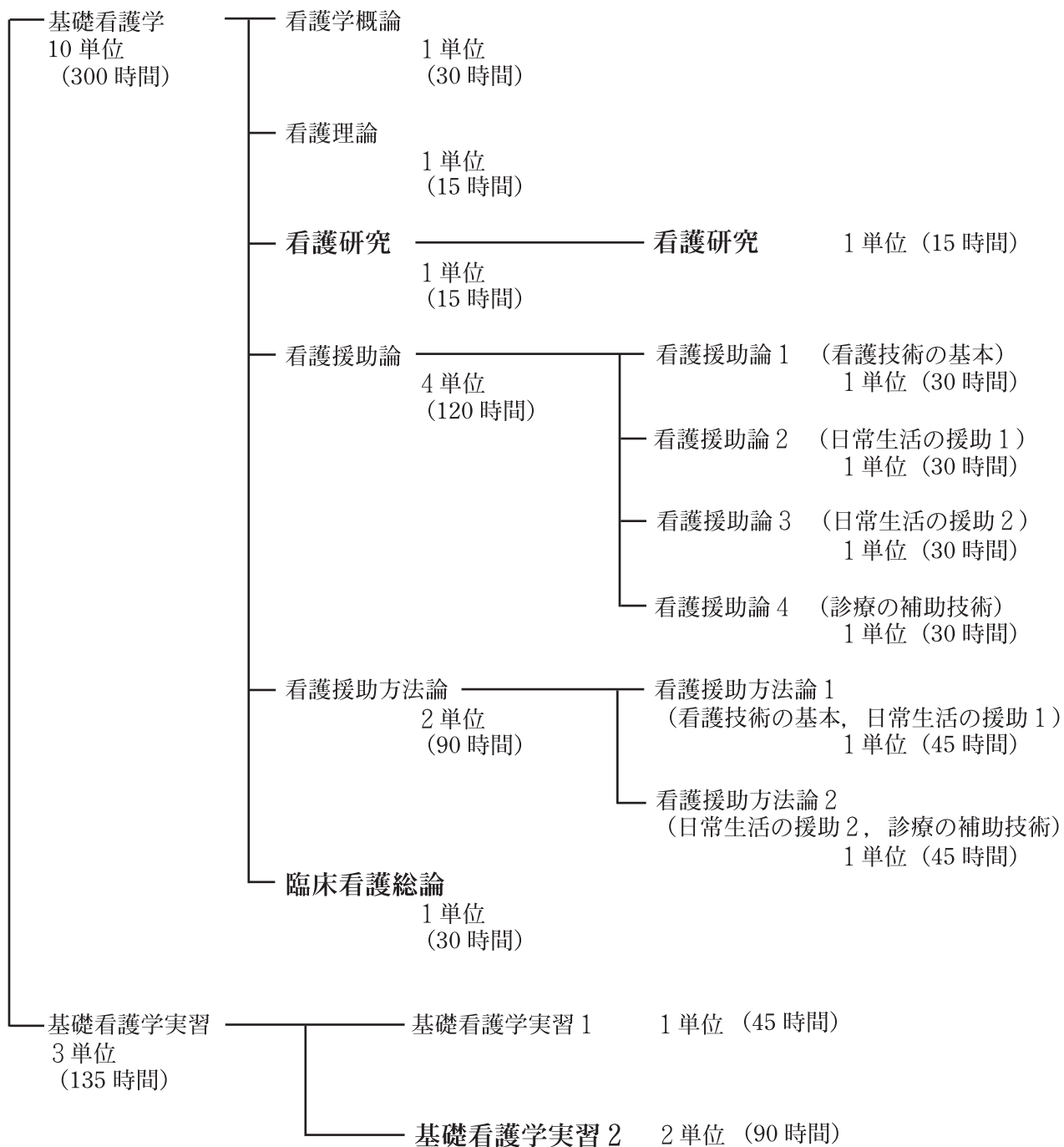
2. 目的

人間のライフサイクルにおける健康の意義、看護の対象としての人間、看護の概念、並びに保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を認識し、看護の基礎となる知識・技術・態度を養う。

3. 目標

- 1) 人間のライフサイクルにおける健康の意義について理解できる。
- 2) 看護の対象を、身体的・精神的・社会的側面から学び、統一体として理解できる。
- 3) 看護の概念を学び、看護の役割を理解できる。
- 4) 慈恵看護史の学びを通して、看護理論の成立が理解できる。
- 5) 看護研究の意義が理解できる。
- 6) 看護実践における基礎看護技術を習得し、応用できる能力を養うことができる。

4. 基礎看護学の構成



基礎看護学

看護研究				開講時期	10月 ～1月	単位数	1	時間数	15
科目責任者		中尾 みさ子							
科目目標 看護の質を高めるための研究の基礎、研究のプロセスを理解する。									
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容					
1	中尾みさ子	講義	看護研究とは何かについて学び、研究に取り組む基本的な姿勢について考えることができる 研究のプロセスがわかる	1. 研究とは 2. 看護領域における研究 1) 看護研究とは 2) 看護研究の意義と目的 3. 研究の構成要素とプロセス 1) 研究論文の種類 2) 研究論文の構成要素 3) 研究のプロセス					
2		講義	研究デザインと研究方法について理解する	4. 研究の方法 1) 研究のアプローチ法 2) 研究の種類 3) データの種類と収集の方法 4) 量的研究・質的研究					
3		講義 ワーク	看護研究における文献検索の意義と方法について理解できる 文献検索の実際がわかる	5. 文献検索の意義と方法 1) 文献とは 2) 文献検索の意義 3) 文献の種類 4) 文献検索の方法 5) 文献整理の方法 6) 文献検索の実際					
4		講義 ワーク	研究論文の批評の必要性和評価方法について理解し、研究論文の批評の実際がわかる	6. 文献の批評（クリティーク） 1) 文献の批評（クリティーク）とは 2) 文献批評の実際					
5		講義 ワーク	研究疑問を明確にする必要性がわかる 問題を明確化するための視点がわかる	7. 研究テーマの設定 1) 問題の意識化 2) 問題の明確化 3) 問題の客観化 4) エピソード記述					
6		講義 ワーク	研究における倫理的配慮の必要性が理解できる	8. 看護研究における倫理 1) 研究において擁護されるべき権利 2) 検討考慮される項目 3) 倫理的配慮の記載例					
7		講義 ワーク	研究計画書作成の意義がわかる 研究計画書を作成する	9. 研究計画書作成の意義と要点 1) 研究計画書の意義 2) 研究計画書の記載事項					
8		講義	看護研究発表の意義と実際がわかる	10. 発表の意義と実際 1) 発表・共有の場 2) 発表の種類 3) 発表の準備 4) 発表の実際					
使用テキスト 李 節子 著 看護研究ころえ帳 第3版 研究の基本からプレゼンテーションまで 医歯薬出版株式会社 松本 孚 森田 夏実 編集：看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 新版 照林社									
評価方法 ワークの取り組み、内容、提出状況 および 試験									

基礎看護学

臨床看護総論				開講時期	4月 ～9月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		森元 洋子							
科目目標 対象に応じた看護過程を展開する基礎的能力を養う。									
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容					
1	森元 洋子	講義	看護過程の概念を理解する	看護過程とは 看護過程展開の基盤となる考え方 問題解決過程とクリティカルシンキング					
2		講義	看護過程展開の基礎的要素を理解する	看護過程の段階 アセスメント 看護問題の明確化 計画 実施 評価					
3									
4									
5		講義	科学的看護論の思考過程を理解する。	看護過程の展開 科学的看護論の理論 看護過程展開の技術					
6									
7									
8									
9		講義	科学的看護論の思考過程を活用し事例展開する。	看護過程展開の実際 ＜ケース1＞					
10	森元 洋子 他	グループワーク	科学的看護論の思考過程を活用し事例展開する。	＜ケース2＞ ケース紹介と個人ワークの導入 情報整理・アセスメントにより全体像の把握					
11		グループワーク		看護上の問題抽出 看護上の問題の構成要素確認					
12		グループワーク		中位目標・上位目標の設定					
13		グループワーク		下位目標の設定					
14		講義		まとめ（共通理解）					
15		グループワーク		日々の看護展開					
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学（2） 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 科学的看護論第3版 日本看護協会出版会									
参考図書									
評価方法 グループワークでの参加状況・理解度 試験									
授業を受ける際の留意点									

成人看護学

1. 考え方

成人期は成長発達、成熟、そして衰退へと変化する人間のライフサイクルの中で、最も長い期間にあたる。

成人は一人の人間として、社会の中で中心的役割と責任を担う存在であり、発達課題を達成しながら生活し適応能力を高めていく。それに伴い、個々の価値観や自己概念を形成し、精神的な自律につなげ自己の存在を確認する。成人の健康は、生活習慣や環境、過剰なストレスの影響を受けやすい。そのため、心身上の健康問題から生命の危機状態に陥ったり、予期せぬ死との直面によって本人及び周囲の人々は大きな衝撃を受け、経済的基盤の揺らぎ、社会的役割の変更などの問題を抱える。

成人看護学は、成人期にある人の特徴を理解し、人々の成長発達・適応・自律を促し、疾病からの回復、あるいは安らかな死への援助とともに成人期にある人の健康を保持増進することをめざす。

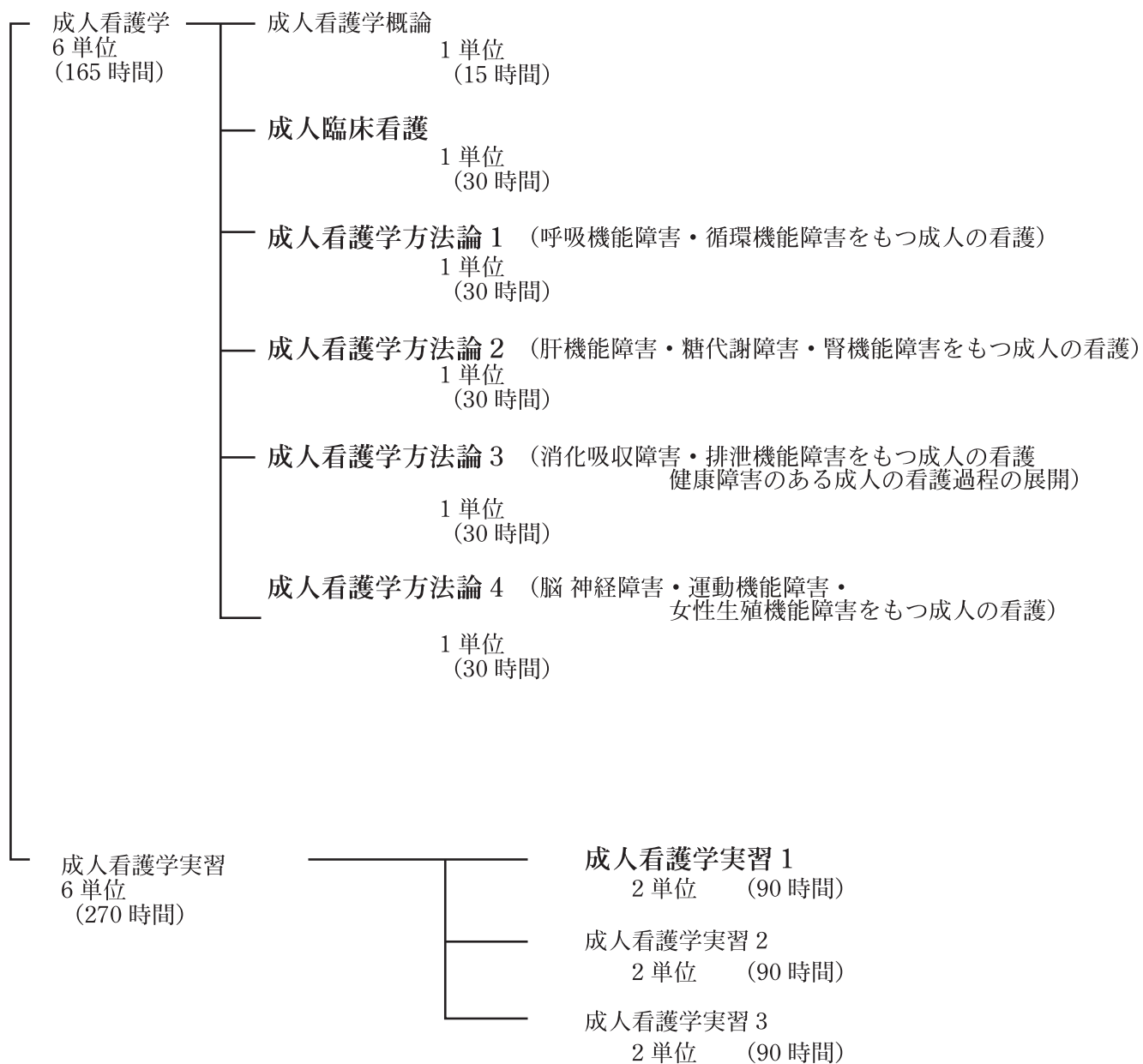
2. 目的

成人の特徴と健康の保持増進の重要性を理解し、さまざまな健康の段階にある人の看護を学ぶ。

3. 目標

- 1) 成人を身体的・精神的・社会的側面から理解する。
- 2) 成人の成長発達・適応・自律をめざし、健康の保持増進のための看護を理解する。
- 3) 成人の健康障害を理解し、健康の段階に応じた看護を理解する。

4. 成人看護学の構成



成人看護学

成人臨床看護			開講時期	4月 ～7月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		高橋 真喜						
科目目標								
1. さまざまな健康段階にある成人の看護を理解する。 2. 治療を受ける成人の看護を理解する。								
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容				
1	中尾みさ子	講義	急性期にある成人の看護について理解する	健康の段階 急性期にある人の特徴 急性期にある人の看護 コーピング 危機理論 PTSD				
2								
3		講義	慢性期にある成人の看護について理解する	慢性期にある人の特徴 慢性期にある人の看護 自己管理の支援 社会資源の活用 ヘルスケアシステムの調整				
4		講義	リハビリテーションにおける看護を理解する	リハビリテーションの中での看護の役割 経過別リハビリテーション 障害受容過程への援助 生活行動の再獲得への支援				
5	中尾みさ子	講義	終末期にある人の特徴を理解する	終末期にある人・家族の特徴 身体的特徴 精神的特徴 社会的特徴 霊的特徴				
6		講義	終末期にある人の看護を理解する（1）	症状マネジメント 疼痛マネジメント WHO 方式 NSAIDs・弱オピオイド・強オピオイド の特徴及び副作用対策 QOLの保証 グリーフケア 死をめぐる倫理的課題				
7	緩和ケア 認定看護師	講義	終末期にある人の看護を理解する（2）	終末期にある人の看護の実際 （事例を用いて） 緩和ケア 医療チームの連携の実際 （社会的援助を含む） 死の看取り 死の看取りの目標と援助 臨終・死亡時のケア				

成人看護学

回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容
8	高橋 真喜	講義	周手術期にある人の特徴と術前の看護を理解する	周手術期にある人の特徴 術前のアセスメント 術前からの術後合併症予防
9				
10	手術看護 認定看護師	講義	術中の看護を理解する	手術室看護師の役割 麻酔導入と体位 感染予防 体温管理 事故防止
11	高橋 真喜	講義	術後の看護を理解する	術後の回復過程と看護の特徴 術後回復促進への援助（早期離床にむけて） 疼痛・苦痛の緩和 術後合併症の予防
12				
13				
14	高橋 真喜	講義	化学療法・放射線療法を受ける人の看護を理解する	化学療法を受ける人の特徴 化学療法を受ける人の看護 全身機能・骨髄抑制のアセスメント 抗がん薬の与薬法・管理 放射線療法を受ける人の特徴 放射線療法を受ける人の看護
15	高橋 真喜 他	演習	周手術期にある人への看護技術を習得できる	創傷処置 輸液療法中の寝衣交換
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（１）成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学（４）臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 看護技術プラクティス第２版 学研				
参考図書				
評価方法 試験				
授業を受ける際の留意点				

成人看護学

成人看護学方法論 1 (呼吸機能障害・循環機能障害をもつ成人の看護)			開講時期	4月 ～9月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		中山 久江						
科目目標								
1. 呼吸機能障害をもつ成人の看護を理解する。 2. 循環機能障害をもつ成人の看護を理解する。								
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容				
1	中山 久江	講義	呼吸機能障害をもつ人の特徴を理解する 呼吸機能障害をもつ人の症状と症状に応じた看護を理解する	呼吸機能障害をもつ人の特徴と看護 呼吸機能障害をもつ人の症状と看護 (咳嗽・喀痰・血痰・喀血・呼吸困難・胸水)				
2								
3	中山久江他	演習	呼吸を整える技術が習得できる	吸引・体位ドレナージ 異常呼吸音聴取				
4	中山 久江	講義	呼吸機能障害をもつ人の検査・処置に応じた看護を理解する	呼吸機能障害をもつ人の検査・処置に応じた看護 (気管支鏡検査・胸腔穿刺・胸腔ドレナージ・人工呼吸器装着)				
5								
6			呼吸機能障害をもつ人の疾患に応じた看護を理解する	呼吸機能障害をもつ人の疾患に応じた看護 (肺がん) 治療に応じた看護 (薬物療法・放射線療法・手術療法) ＊開胸手術・胸腔鏡下手術を受ける人の看護				
7								
8								
9	小幡 慶子	講義	集中治療を受ける人の看護を理解する	集中治療を受ける人の看護				
10	小幡 慶子	講義	循環機能障害をもつ人の特徴を理解する 虚血性心疾患患者の看護を理解する	循環機能障害をもつ人の特徴と看護 虚血性疾患をもつ人の症状の観察と看護 (胸痛・血圧異常・浮腫)				
11			循環機能障害をもつ人の治療に伴う看護を理解する	経皮的冠状動脈形成術を受ける人の看護(PCI) (心電図・運動負荷試験・心臓カテーテル検査補助循環装置) 開心術を受ける人の看護				
12								
13								
14			不整脈患者の看護を理解する	不整脈のある人の看護 症状の観察と看護 ペースメーカー挿入術を受ける人の看護				
15		心不全患者の看護を理解する	症状の観察と看護					
使用テキスト								
系統的看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(2)呼吸器			医学書院					
系統的看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(3)循環器			医学書院					
系統的看護学講座 別巻 臨床外科看護各論			医学書院					
看護技術プラクティス第2版 学研								
参考図書								
評価方法 試験								
授業を受ける際の留意点 演習前にはナースングスキル(口腔・鼻腔・気管内吸引)をみる								

成人看護学

成人看護学方法論 2 (肝機能障害・糖代謝障害・腎機能障害をもつ成人の看護)				開講時期	5月 ～9月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		小幡 慶子							
科 目 目 標									
1. 肝機能障害をもつ成人の看護を理解する。 2. 糖代謝障害をもつ成人の看護を理解する。 3. 腎機能障害をもつ成人の看護を理解する。									
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容					
1	中山 久江	講義	肝機能障害をもつ人の特徴を理解する。 急性・慢性肝炎の主な治療と看護を理解する。 肝硬変患者の看護を理解する。	肝機能障害をもつ人の特徴と看護 症状の観察と看護 治療に伴う看護 インターフェロン療法と看護					
2									
3									
4	小幡 慶子	講義	糖代謝障害をもつ人の特徴を理解する。 糖尿病患者の看護を理解する。 薬物療法における管理を理解する。	糖代謝障害をもつ人の特徴と看護 症状の観察と看護 治療に伴う看護 食事療法・運動療法・薬物療法					
5									
6									
7	小幡 慶子 他	演習	血糖コントロールが必要な人の看護技術を習得できる。	血糖測定 皮下注射					
8	糖尿病看護 認定看護師	講義	自己管理に向けての看護を理解する。	教育的指導（集団、個人） 社会資源の活用（患者会など）					
9	永野 栄美	講義	腎機能障害をもつ人の特徴を理解する。 慢性腎不全患者の看護を理解する。	腎機能障害をもつ人の特徴と看護 症状の観察と看護 検査に伴う看護 治療に伴う看護 血液透析を受ける人の看護 腹膜透析を受ける人の看護					
10									
11									
12									
13		講義・ グループワーク	慢性腎不全患者の退院指導の具体的内容を理解する。	血液透析を受ける患者の退院指導計画					
14	永野 栄美								
15	他	ロール プレイ							
使用テキスト									
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（5）消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（6）内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（8）腎・泌尿器 医学書院 糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病協会・文光堂 腎臓病食品交換表 治療食の基準 医歯薬出版株式会社 看護技術プラクティス第2版, 学研									
参考図書									
評 価 方 法									
試験 レポート：内容及び提出状況 参加度									
授業を受ける際の留意点									
9回目の授業講義までに、DVD「守りたいあなたらしさ～透析とともに」「イキイキ透析ライフ」を見て学習に臨むこと。 13回目の講義までに、DVD「看護のためのアセスメント事例集第2版 V o l .11 慢性腎不全の血液透析患者の看護事例, 医学映像教育センター」を見て学習に臨むこと。									

成人看護学

成人看護学方法論 3 (消化吸収障害・排泄機能障害をもつ成人の看護 健康障害のある成人の看護過程の展開)				開講時期	5月 ～12月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		高橋 真喜							
科目目標									
1. 消化・吸収障害をもつ成人の看護を理解する。 2. 排泄機能障害をもつ成人の看護を理解する。 3. 健康障害のある成人の看護過程の展開ができる。									
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容					
1	高橋 真喜	講義	消化・吸収障害をもつ人の特徴を理解する 胃がん患者の看護を理解する	消化吸収障害をもつ人の特徴 胃がんの症状の観察と看護 胃がんの検査時の看護 上部消化管造影 胃内視鏡 胃がんで開腹術を受ける人の看護					
2									
3									
4									
5									
6	森元 洋子 皮膚排泄ケア認定看護師	講義	胆道疾患の主な検査・治療とその看護を理解する	胆道疾患の検査時の看護 内視鏡的逆行性胆管膵管造影 経皮経肝胆道ドレナージを受ける人の看護 内視鏡的胆嚢摘出術を受ける人の看護					
7									
8									
9									
10	森元 洋子	講義	膀胱がん患者の看護を理解する	膀胱がんの症状の観察と看護 膀胱がんの検査時の看護 膀胱鏡検査 尿路変更術を受ける人の看護					
11	高橋 真喜	講義・グループワーク	周手術期にある人の看護過程が展開できる	周手術期にある人の看護過程の展開					
12	高橋 真喜 他	グループワーク							
13									
14									
15									
使用テキスト									
系統看護学講座		専門分野Ⅱ	成人看護学（5）消化器	医学書院					
系統看護学講座		専門分野Ⅱ	成人看護学（8）腎・泌尿器	医学書院					
系統看護学講座		別巻	臨床外科看護総論	医学書院					
系統看護学講座		別巻	臨床外科看護各論	医学書院					
科学的看護論：		薄井担子 日本看護協会出版会							
参考図書									
評価方法									
試験									
レポート： 内容および提出状況									
授業を受ける際の留意点									

成人看護学

成人看護学方法論 4 (脳 神経障害・運動機能障害・女性生殖器機能障害をもつ成人の看護)				開講時期	10月 ～12月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		森元 洋子							
科 目 目 標									
1. 脳 神経障害をもつ成人の看護を理解する。 2. 運動機能障害をもつ成人の看護を理解する。 3. 女性生殖器に障害をもつ人の看護を理解する。									
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容					
1	小幡 慶子	講義	脳神経機能障害をもつ人の特徴 を理解する 症状の観察と看護を理解する	脳神経機能障害をもつ人の特徴 症状の観察と看護 (意識障害・高次脳機能障害・言語障害・ 運動麻痺・頭蓋内圧亢進症・視野障害)					
2									
3			脳神経機能障害の治療に伴う 看護を理解する 開頭術を受ける人の看護を理解 する	血管内治療（血栓溶解術、動脈瘤塞栓術） 低体温療法中の患者の援助 開頭術を受ける人の看護 手術前・手術後の看護					
4									
5			脳腫瘍患者の看護を理解する	病期に応じた援助 検査時の看護 脳室ドレナージ術、脳室一腹腔シャント術					
6									
7		講義	頸髄損傷患者の看護を理解する	症状の観察と看護(運動麻痺・痙性・感覚麻痺・ 自律神経障害・排泄障害・褥瘡) 脊髄ショック期の看護 検査（ミエログラフィ）の看護 回復期のリハビリテーションと看護 (自己導尿法)					
8									
9	森元 洋子	講義	運動機能障害をもつ人の特徴と 治療に伴う看護を理解する	運動機能障害をもつ人の特徴 牽引時の看護 ギプス固定時・固定中の看護					
10									
11		腰椎椎間板ヘルニアの患者の 看護を理解する	腰椎椎間板ヘルニアの症状の観察と看護 保存療法を受ける人の看護 髄核摘出術を受ける人の看護						
12									
13		講義	女性生殖器に障害をもつ人の 特徴を理解する 子宮がん患者の看護を理解する	女性生殖器に障害をもつ人の特徴 罹患しやすい疾病と動向 予防と検診 子宮がんの症状の観察と看護 検査（コルポスコピー）の看護 広汎子宮全摘出術を受ける人の看護					
14									
15	講義	乳がん患者の看護を理解する	乳がんの症状の観察と看護 乳房切除術を受ける人の看護						
使用テキスト									
系統看護学講座		専門分野Ⅱ	成人看護学（7）脳・神経	医学書院					
系統看護学講座		専門分野Ⅱ	成人看護学（10）運動器	医学書院					
系統看護学講座		専門分野Ⅱ	成人看護学（9）女性生殖器	医学書院					
系統看護学講座		専門分野Ⅰ	基礎看護学（4）臨床看護総論	医学書院					
系統看護学講座		別巻	臨床外科看護総論	医学書院					
系統看護学講座		別巻	臨床外科看護各論	医学書院					
参考図書									
評 価 方 法									
試験									
授業を受ける際の留意点									

老 年 看 護 学

1. 考え方

老化は生物、物質に起こる現象であり人間も例外ではない。人間は、老化により日常生活に支障をきたすようになると老いを実感する。さらに、生活の中で人の援助が必要になると社会的存在としての自己のあり方を自覚するようになる。人間は老年期までの長いライフサイクルの過程で、身体的、精神的、社会的機能が変化する。

また、その変化を相互に影響させながら、自己実現に向かい発達し続ける存在である。

老年期の人々は、それまで生きてきた長年の豊富な体験と実績という社会の資産である。常に人間として生きる権利を尊重され、尊厳が認められなければならない。

老年看護学のねらいは、老化に応じた生活の支援そして人生の終末まで、できるかぎり自立して人間らしい尊厳を保持するように援助していくことである。そのためには、生活する高齢者を支える医療制度や福祉制度についても考えられるようにする必要がある。

そしてライフステージにおいて老年期は、必ず死を迎えることになりその死について考える機会をもつ。

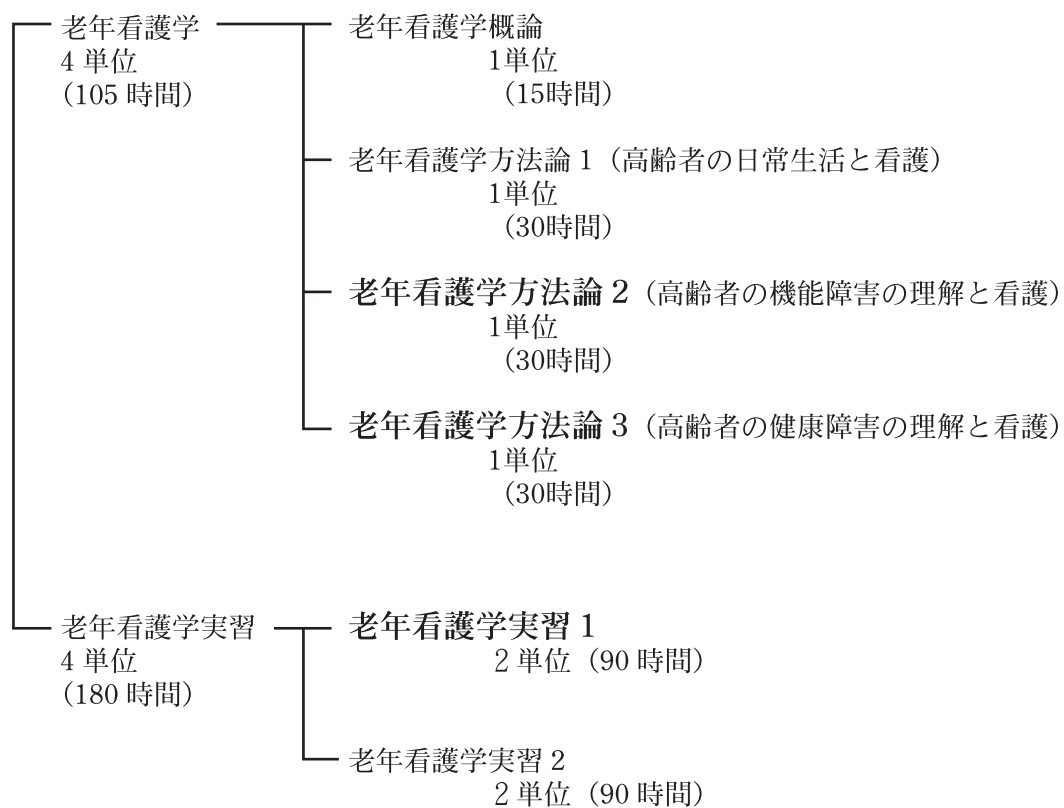
2. 目的

老年期にある対象の特徴を理解し、老化の過程における健康の保持増進、健康障害時の対象およびその家族の看護について学ぶ。

3. 目標

- 1) 老年期にある対象の身体的、精神的、社会的変化を知り、高齢者のライフステージを理解する。
- 2) 高齢社会における高齢者の保健医療福祉の動向と課題を理解する。
- 3) 加齢に伴う高齢者の健康状態の理解を深め、老年看護の機能と役割を理解する。
- 4) 高齢者の健康障害時の諸問題について知り、障害をもつ高齢者と家族に対する看護の方法を習得する。
- 5) 高齢者の「生」や「死」についての理解を深め、生命や人格を尊重する態度を養う。

4. 老年看護学の構成



老年看護学

45

参考図書

別途提示する。

評価方法

筆記試験・参加度

授業を受ける際の留意点

- 1) 講義内で「ナーシングスキル」「ビジュラン」の動画や手順を活用します。指定された内容を視聴・学習し講義に臨みましょう。
 - 2) 演習の際は指示された事前学習および技術練習を行ない講義・演習に臨む。
 - ①提示された事前課題のナーシングスキルの項目は印刷し持参する。
 - ②ナーシングスキル・ビジュランを前日までに視聴し、テストを受けて演習に臨む。
- ＊演習に臨む準備状況が整わない場合は、演習に参加できないことがある。

老年看護学

老年看護学方法論 3 (高齢者の健康障害の理解と看護)				開講時間	9月 ～12月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		本田 真弓							
科目目標 高齢者の健康障害・療養の場に応じた看護を理解する。									
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容					
1	神山 稔枝	講義	治療を受ける高齢者の看護を理解する。 受療形態に応じた高齢者への看護を理解する。	1. 治療を受ける高齢者への看護 1) 薬物療法を受ける高齢者の看護 2) 検査時の看護 3) 手術療法時の看護 2. 受療形態に応じた高齢者への看護 1) 入院時の看護 2) 外来診察時の看護 3) 在宅・施設につなげる看護 (地域連携部門)					
2									
3									
4	忽滑谷和孝	講義	認知症のある高齢者の看護を理解する。	3. 疾病を持つ高齢者の看護 1) 認知症高齢者の看護 (1) 認知症の病態と治療					
5	赤石澤幸子			(2) 認知症高齢者の看護 (3) 認知症高齢者の看護の実際					
6									
7									
8	本田 真弓		健康障害のある高齢者の看護を理解する。	4. 高齢者に多い様々な健康障害の看護 1) 肺炎のある高齢者の看護					
9	永野 栄美			2) 大腿骨骨折のある高齢者の看護					
10				3) 白内障のある高齢者の看護					
11				4) パーキンソン病のある高齢者の看護					
12		5) 前立腺肥大症のある高齢者の看護							
13	本田 真弓	講義	高齢者の多様な生活の場と看護を理解する。	5. 高齢者の保健医療福祉施設の特徴と看護 1) 介護療養型医療施設 2) 介護老人保健施設 3) 介護老人福祉施設 4) グループホーム 5) 小規模多機能型居宅介護					
14	本田 真弓	講義	終末期にある高齢者の看護を理解する。	6. 高齢者の終末期の看護 1) 終末期にある高齢者の看護 2) 看取り終えた家族への看護					
15									
使用テキスト									
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	老年看護学	医学書院						
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	老年看護 病態・疾患論	医学書院						
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学(7) 脳・神経	医学書院						
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	精神看護学(1) 精神看護の基礎	医学書院						
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学(2) 呼吸器	医学書院						
系統看護学講座	別巻	臨床外科看護総論	医学書院						
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学(10) 運動器	医学書院						
系統看護学講座	別巻	リハビリテーション看護	医学書院						
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学(8) 腎・泌尿器	医学書院						
系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学(13) 眼	医学書院						
系統看護学講座	統合分野	在宅看護論	医学書院						

参考図書

別途提示する。

評価方法

筆記試験

授業を受ける際の留意点

講義内で「ビジュラン」動画を活用します。指定された内容を視聴・学習し講義に臨みましょう。

小 児 看 護 学

1. 考え方

小児期は社会的存在としての人間へと絶え間なく成長・発達をとげる時期である。

小児は人間のライフサイクルの初期の段階にあり、絶えず環境との相互作用により成長・発達を続ける。

少子高齢化、核家族化、都市型社会が広まる中で、親の意識、生活環境の変化、保健医療の進歩・発展に伴い、乳幼児死亡最低率国となった。しかし、アレルギーや生活習慣病の増加、青少年の体力の低下、いじめ、虐待、犯罪の低年齢化など、こころと身体健康にかかわる問題や社会的問題が増加している。周囲からの影響を受けやすい小児の健康生活の意義は大きく、国や社会・地域・学校・家族が持つ役割は重大である。

小児看護には、未来を担う一人ひとりの成長発達を支援し、健康上の問題については安全・安楽で尊厳の守られた援助が求められる。また健康障害が小児とその家族に及ぼす影響は多大で、家族との協力や家族へ支援も看護の役割として大きい。さらに、小児自身が自分の健康を生涯守っていけるような保健行動を育てることも必要になる。

小児看護学では、子どもの基本的人権を守り、小児の特性と小児をとりまく環境を理解し、成長・発達や健康の保持増進を促すとともに、疾病の予防や健康回復にかかわる看護の役割とその方法について学ぶ。

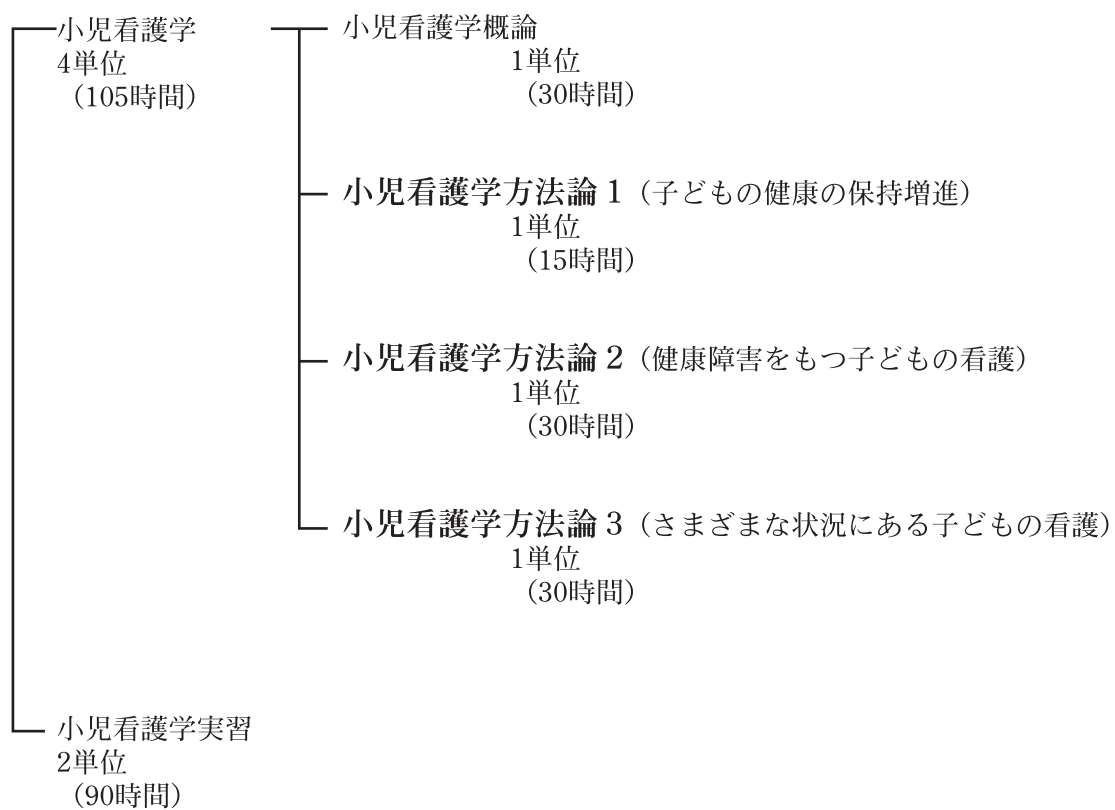
2. 目的

小児の特性と小児をとりまく環境を理解し、健やかな人間形成を促すとともに、健康の保持増進、疾病の予防、健康回復への看護を実践できる基礎的能力を養う。

3. 目標

- 1) 小児の成長・発達の過程について身体的、精神的、社会的側面から統合的に理解する。
- 2) 小児をとりまく環境の意義を理解する。
- 3) 小児と家族の関係を理解し、看護の役割を理解する。
- 4) 健やかな人間形成と健康な生活を送るための保育、看護を理解する。
- 5) あらゆる健康段階の小児の健康問題を理解し、解決できる基礎的知識、技術を習得する。
- 6) 保健医療福祉チームにおける看護の果たす役割を理解する。

4. 小児看護学の構成



小児看護学

小児看護学方法論 1 (子どもの健康の保持増進)				開講時期	4月 ～7月	単位数	1	時間数	15
科目責任者		棚澤 昌子							
科目目標 子どもの発達段階に応じた養育と健康の保持増進のための看護を理解する。									
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容					
1	棚澤 昌子	講義	小児各期の生活を理解する。	1. 発達段階に応じたコミュニケーション 2. 発達段階に応じた日常生活の世話 1) 乳児期 2) 幼児期 3) 学童期 4) 思春期					
2									
3									
4									
5	棚澤 昌子	講義	子どもにとっての栄養の意義と方法について理解する。	1. 発達段階別の小児の栄養 1) 授乳期の栄養と支援 2) 離乳期の栄養と支援 3) 幼児期の栄養 4) 学童期・思春期の栄養					
6		講義	子どもの遊びの意義と種類を理解する。	遊びの発達と社会性					
7	棚澤 昌子 足利 裕子	演習	子どもの日常生活の援助ができる。	日常生活援助演習 1) 抱っこ 2) オムツ交換 3) 着替え 4) 授乳・食事					
8		演習	子どもの健康状態を把握する技術を理解する。	子どものバイタルサイン測定演習					
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学（1） 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 医学書院									
参考図書									
評価方法 試験 講義、演習出席・参加状況 課題提出内容									
授業を受ける際の留意点 概論で作成した発達カレンダーに追加記載していく。 演習前にかわいいエプロン・三角巾を各自準備し、演習に臨む。 演習2日前までにナースングスキルを視聴し、手順を印刷、テストをうけてから臨む。									

小児看護学

小児看護学方法論 2 (健康障害をもつ子どもの看護)			開講時期	4月 ～9月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		足利 裕子						
科目目標 病気や入院が子どもにおよぼす影響とその看護を理解する。								
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容				
1	足利 裕子	講義	病気や入院が子どもにおよぼす影響とその看護を理解する。	1. 子どもの病気のとらえ方 1) 子どもの病気の理解 2) 病気の説明とプレパレーション 2. 外来における看護 1) 外来の環境 2) 緊急度の把握（トリアージ） 3) 健康診査、育児相談 3. 入院における看護 1) 病棟の環境と安全確保 2) 入院に伴う子どもの反応 3) 成長・発達に及ぼす影響 4. 退院に向けての援助 1) 在宅への支援 2) 他職種の連携と社会資源 3) セルフケア行動の促進				
2								
3								
4	足利 裕子	講義	子ども特有の症状とその看護を理解する。	1. 子どもに起こりやすい症状と看護 1) 発熱 2) 脱水 3) 浮腫 4) 呼吸困難 5) けいれん 2. 症状を呈する疾患とその看護 川崎病				
5								
6								
7								
8								
9	棚澤 昌子	講義						
10	足利 裕子	講義	手術を受ける子どもの看護を理解する。	1. 子どもと手術 1) 子どもの手術の特徴 2) 手術を要する健康障害と手術の時期 3) 計画手術と緊急手術 4) 日帰り手術 2. 手術中の看護 1) 手術前の看護 2) 手術中の看護 3) 手術後の看護 3. 痛みのある子どもの看護 1) 子どもの痛みの受け止め方 2) 痛みの表現方法 3) 痛みの客観的評価 4) 緩和への援助				
11								
12								
13	足利 裕子	講義	救急処置が必要な子どもの看護を理解する。	1. 子どもの事故の特徴 1) 事故の種類 2) 救命処置 2. 主な症状と看護 1) 外傷と処置 2) 主な誤嚥物質と処置 3) 溺水と処置 4) 熱傷と処置 3. 災害時の看護				
14								
15								

使用テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学（１） 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学（２） 小児看護学各論 医学書院					
参考図書					
評価方法 試験 講義参加状況					
授業を受ける際の留意点					

小児看護学

小児看護学方法論 3 (さまざまな状況にある子どもの看護)				開講時期	10月 ～ 1 月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		棚澤 昌子							
科目目標 治療や処置が子どもにおよぼす影響とその看護を理解する。									
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容					
1	足利 裕子	講義	生活制限が必要な子どもの看護を理解する。	1. 生活制限の種類と目的 2. 安静療法が必要な子どもの看護 3. 隔離が必要な子どもの看護					
2									
3									
4	足利 裕子	講義	先天的障害のある子どもの看護を理解する。	1. 先天異常の種類と特徴 2. 心身障害の定義と種類					
5									
6	足利 裕子	講義・グループワーク	自己管理・生活指導が必要な子どもの看護を理解する。	1. 疾患の特徴と治療 2. セルフケアの獲得への援助					
7									
8	足利 裕子 棚澤 昌子	ロールプレイ							
9	足利 裕子	講義	検査や処置を受ける子どもの看護を理解する。	1. 検査の援助 1) 検体採取 採尿・採便・採血 骨髓穿刺・腰椎穿刺 2) モニタリング 2. 与薬の援助 1) 経口与薬、注射 2) 輸液管理					
10									
11	足利 裕子 棚澤 昌子								
12	足利 裕子	講義	長期に治療が必要な子どもの看護を理解する。	1. 小児がん 化学療法・放射線療法 2. 疾患を持つ子どもの看護 白血病					
13									
14									
15	棚澤 昌子	講義	終末期にある子どもの看護を理解する。	1. 子どもの死の概念 2. 死に対する反応と援助 3. 緩和ケア					
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学（1） 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学（2） 小児看護学各論 医学書院									
参考図書									
評価方法 試験 講義・グループワーク参加状況 課題提出内容									
授業を受ける際の留意点									

母 性 看 護 学

1. 考え方

母性看護学は、女性の一生を通して、自己実現と次代の育成に向けて、より高い健康レベルをめざして援助することを目的とした学問体系である。

女性が主体的な自己実現を果たすためには、特に女性のリプロダクティブヘルス／ライツが保障されることが重要である。そこで母性看護学では、人間を母性機能の側面からとらえ、リプロダクティブヘルス／ライツの実現に向け、母性各期に大きく変化する身体的特徴や、その身体的変化に伴う精神的・社会的な特徴を理解する。そして健康の保持増進、疾病予防のためのセルフケアへの援助を中心とした看護の役割を学ぶ。

また、今日は女性および母子をとりまく生活環境は著しく変化し、女性のライフサイクルや家族形態にも影響を及ぼしている。さらに生命倫理の問題など、医療技術の進歩により医療への期待が変化している。このような社会変化やニーズをとらえた看護のあり方を考える。

そして、自らが次代を担う母性看護の対象者として、健康な日常生活を実践する能力や態度を養う。また、周産期における母性および胎児・新生児の看護を通して生命の神秘・生命の尊厳について考えると共に、看護者としての態度を育成する。

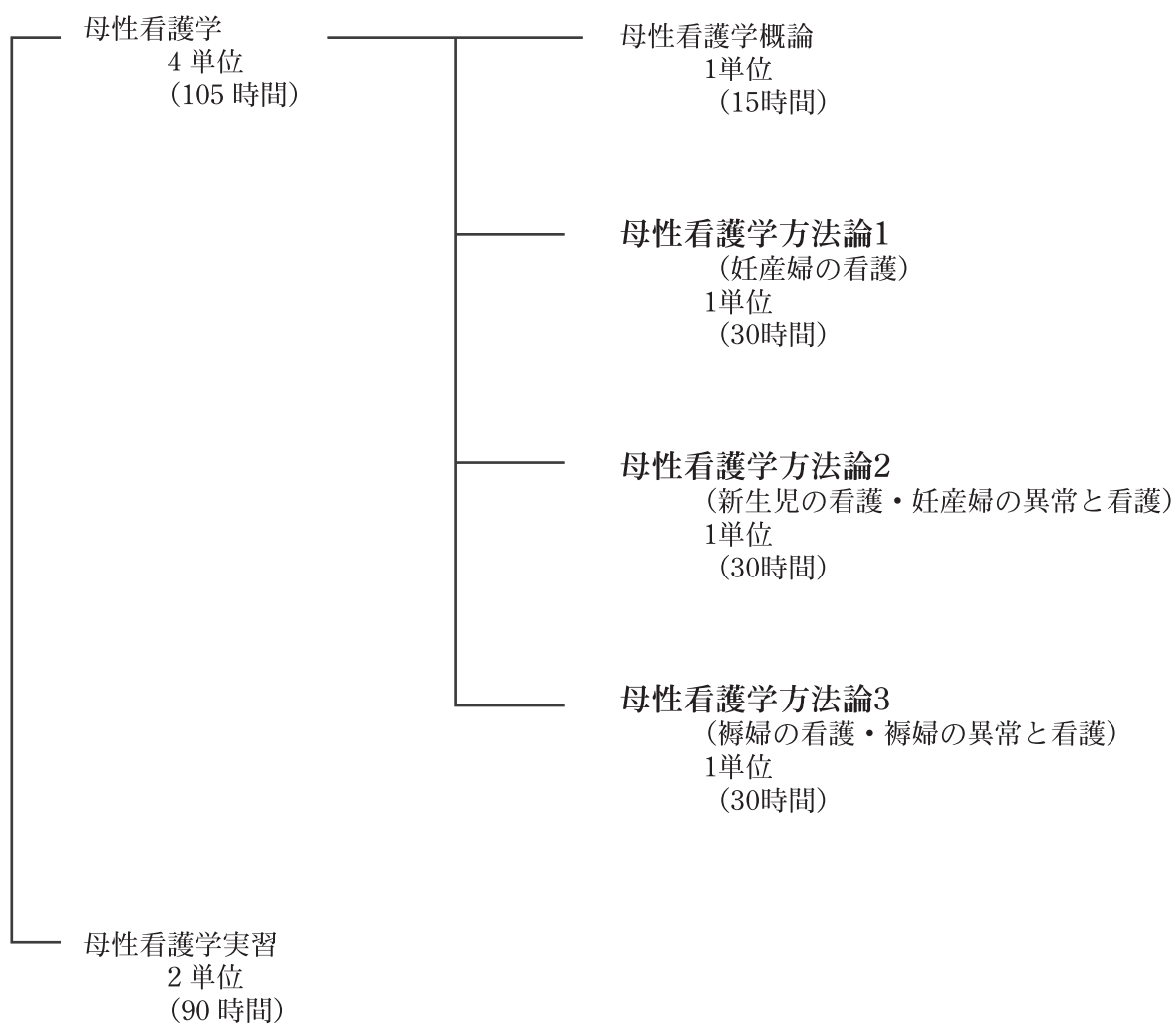
2. 目的

次代の育成に向けて母性各期の特徴を総合的にとらえ、対象がより健康なライフサイクルを送るために適切な援助ができる基礎的能力を養う。

3. 目標

- 1) ヒトのもつ種族保存の働き（生殖）とその意義および母性看護の役割を理解する。
- 2) 母性看護の対象のライフサイクルと母性各期の特徴、および社会の変化による母性の心身に及ぼす影響やニーズを理解する。
- 3) 母性の健康に影響を及ぼす諸因子を知り、リプロダクティブヘルス／ライツを実現するための保健対策と保健活動を理解する。
- 4) 周産期における対象の健康問題を解決するための援助方法を理解する。
- 5) 周産期における対象の看護を通して生命の神秘性や尊さを知り、生命尊重の価値観を養うとともに看護者としての態度を育成する。

4. 母性看護学の構成



母性看護学

母性看護学方法論 1 (妊産婦の看護)				開講時期	4月 ～9月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		唐澤 教子							
科目目標 妊娠期・分娩期にある対象の身体的・心理的・社会的側面を理解し、妊婦・産婦の看護を理解する。									
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容					
1	唐澤 教子	講義	妊婦と妊娠の生理を理解する。	妊娠の生理 妊娠の定義 妊娠の成立 妊娠の週数					
2		講義	妊娠期の身体的特性を理解する。	母体の生理的变化 妊娠の経過と胎児の発育 妊娠による不快症状					
3		講義	妊娠期の心理・社会的特性を理解する。	妊婦と家族の心理、社会的変化 親になることへの準備					
4		講義	妊婦と胎児のアセスメントを理解する。 妊婦健康診査の目的と方法を理解する。	妊婦と胎児のアセスメント 妊娠の診断 妊娠時期の診断 妊婦健康診査・妊娠期に行う検査の目的と方法 妊婦の健康状態のアセスメント 胎児の発育と健康状態のアセスメント					
5									
6		講義	妊婦と家族の看護を理解する。	母子保健サービス 妊娠の届出 母子健康手帳 保健指導					
7		講義	妊婦の保健指導を理解する。	妊婦の日常生活への保健指導 食生活 排泄 体重コントロール 嗜好品他 マイナートラブル					
8		講義	親になるための準備教育を理解する。	親になるための準備教育 母親役割 父親役割 高年・若年妊娠 母親学級 両親学級 バースプラン					
9		講義	不妊治療とその看護を理解する。	不妊症・不育症、出生前診断 生殖補助医療の歴史、治療方法の種類、課題					
10	渡邊 綾子	講義	産婦を理解する。	産婦とは					
11		講義	分娩の生理を理解する。	分娩の生理 分娩の3要素 分娩の機序					
12		講義	分娩の経過を理解する。 産婦と胎児のアセスメントを理解する。	分娩の経過 産婦と胎児のアセスメント 産婦の観察とケア 産痛の機序 産痛緩和					
13									
14		講義	産婦の心理と看護を理解する。 分娩期の看護を理解する。	産婦の心理・社会的変化 産婦のニード バースプラン 分娩第1期、2期、3・4期の看護 分娩経過に関する記録 出産の振り返り					
15									
使用テキスト 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学（1） 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学（2） 母性看護学各論 医学書院									
参考図書 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学（9） 女性生殖器 医学書院									
評価方法 試験									
授業を受ける際の留意点									

母性看護学

母性看護学方法論 2 (新生児の看護・妊産婦の異常と看護)			開講時期	10月 ～ 1 月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		唐澤 教子						
科 目 目 標								
1. 新生児期の特徴を理解し、胎外生活適応過程における新生児への看護を理解する。 2. 妊娠期・分娩期に起こりやすい異常、治療、看護を理解する。								
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容				
1	唐澤 教子	講義	新生児の生理を理解する。	新生児の定義・分類 新生児の生理と機能 早期新生児期に起こる生理的变化 胎外生活適応過程における健康状態のアセスメント 周産期医療システム（総合周産期母子医療センター、NICU、GCU の役割）				
2								
3								
4		講義	出生直後の新生児の看護を理解する。	出生直後の看護				
5		講義	胎外生活適応過程における新生児の看護を理解する。 基本的ニーズ・母子愛着形成への看護を理解する。	新生児への看護 生理的变化が逸脱しないための看護 新生児の基本的ニーズへの看護 母子愛着形成・新生児の成長発達への看護				
6								
7		講義	帝王切開術で出生した新生児の看護を理解する。	帝王切開術で出生した新生児の特徴と看護 母体の感染症と新生児への影響				
8		講義	新生児の看護技術に関する基礎知識を身に付ける。	新生児の看護技術 バイタルサイン測定と全身観察 清潔 排泄 栄養 活動と休息 睡眠 保育環境				
9	唐澤 教子 他	演習	新生児の看護技術を習得する。	新生児の看護技術の実際（演習） 沐浴 身体計測 バイタルサイン測定と全身観察				
10								
11	大場 温子	講義	新生児の異常と治療を理解する。	新生児の異常と治療 低出生体重児・早産児 新生児仮死 高ビリルビン血症				
12	小児病棟 看護師	講義	新生児の異常と看護を理解する。	新生児の異常と看護 低出生体重児・早産児への看護 ディベロップメンタルケア				
13	堀谷まどか	講義	妊産婦の異常と看護を理解する。	妊産婦の異常と看護 ハイリスク妊娠 双胎の種類 双胎間輸血症候群 妊娠高血圧症候群 妊娠糖尿病 流産 分娩時異常出血 前置胎盤 常位胎盤早期剥離 前期破水 DVT 肺塞栓症 胎児機能不全 急速遂娩（吸引・鉗子分娩、帝王切開術）				
14								
15								
使用テキスト								
系統看護学講座		専門Ⅱ	母性看護学（1）	母性看護学概論	医学書院			
系統看護学講座		専門Ⅱ	母性看護学（2）	母性看護学各論	医学書院			
系統看護学講座		専門Ⅱ	小児看護学（2）	小児臨床看護各論	医学書院			
参考図書								
系統看護学講座		専門Ⅱ	成人看護学（9）	女性生殖器	医学書院			
評 価 方 法								
試験・参加状況								
授業を受ける際の留意点								
演習日までに、事前学習と技術練習を行い、演習に臨む。また演習日には、沐浴のナースングスキルの印刷を持参する。第8回講義日までに、沐浴のナースングスキルを事前に視聴し、必要な資料を印刷し、持参する。								

母性看護学

母性看護学方法論 3 (褥婦の看護・褥婦の異常と看護)				開講時期	10月 ～ 1 月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		渡邊 綾子							
科目目標									
1. 産褥期の身体的・心理的・社会的側面を理解し、褥婦への看護を理解する。									
2. 産褥期の異常と、看護を理解する。									
3. 母性における看護過程の技術と保健指導を理解する。									
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容					
1	渡邊 綾子	講義	褥婦の退行性変化を理解する。	産褥期の定義 褥婦の退行性変化（子宮復古 悪露） 全身状態の変化					
2									
3		講義	褥婦の進行性変化を理解する。	褥婦の進行性変化（乳汁分泌）					
4		講義	退行性変化を促す看護を理解する。	退行性変化を促す看護 日常生活のセルフケア					
5		講義	進行性変化を促す看護を理解する。	進行性変化を促す看護 母乳育児への支援 母体の感染症と母乳					
6		講義	褥婦の心理・社会的変化と看護を理解する。	褥婦の心理・社会的変化 母親としての成長を促す看護 母子愛着形成への看護 マタニティブルーズ 産後うつ病 エジンバラ産後うつ病質問					
7		講義	産褥期に起こりやすい異常と看護を理解する。	産褥期に起こりやすい異常と看護 子宮復古不全 乳腺炎 産褥熱					
8		講義	育児知識・技術習得への看護を理解する。 退院後の生活に向けた保健指導を理解する。	育児知識・技術習得への支援 退院指導（日常生活、家族計画、産後健診、 出生届など手続き）					
9		講義	帝王切開術を受ける妊産褥婦の看護を理解する。	帝王切開術を受ける妊産褥婦への看護					
10		講義	母子分離、児を亡くした褥婦と家族の看護を理解する。	母子分離への看護 児を亡くした褥婦と家族のグリーフケア					
11	唐澤 教子	講義 ・ グループ ワーク	正常な経過をたどる産褥期への看護過程の展開を理解する。	正常な経過をたどる産褥期の事例展開 保健指導の指導計画と保健指導の実際 ウェルネス志向型の看護					
12									
13									
14									
15									
使用テキスト									
系統看護学講座		専門Ⅱ	母性看護学（1）	母性看護学概論	医学書院				
系統看護学講座		専門Ⅱ	母性看護学（2）	母性看護学各論	医学書院				
参考図書									
系統看護学講座		専門Ⅱ	成人看護学（9）	女性生殖器	医学書院				
評価方法									
試験・参加状況									
授業を受ける際の留意点									
母性看護過程の展開では、主体的に取り組むこと。									

精神看護学

1. 考え方

人間は身体的・精神的・社会的に統合された存在であり、その人を取り巻く環境とのバランスの中で、その人らしく生きようとしている。しかし、社会的構造の複雑化に伴い人々はストレスにさらされることが多くなり、そのバランスが保ちにくい状況が出現している。中高年者のリストラや出社拒否症、虐待やいじめなど、様々な心の問題をはらんでいる。それだけでなく、医療技術の進歩は急性症状のコントロールを可能にした他、「障害を持ちながら生きる」、「人工臓器の力を借りながら生きる」ことを可能にした。今や医療は生命を左右するまでに発展し、倫理的な問題だけでなく、人々の心を危機的な状況に陥れることも少なくない。

精神看護は精神を病む人だけを対象にするのではなく、このような危機的状況にある人々に対し、できるだけ動揺を少なくし、その動揺を肯定的に、意味あるものとして受けとめられるよう、方向づけしていくことが大切である。そして危機的状況にある人に限らず、すべてのライフステージにある人々に対し、精神の健康を保持増進していくために必要な援助を学ぶ。

精神を病む人と同じ人として向き合うことで精神障害者観を養うとともに、かかわりの中から自己の傾向に気付けるようにする。また、ノーマライゼーションの精神のもと、地域で生活している人々と接し対象理解の幅を広げる。

精神看護は対人関係を媒介にして看護を展開するものであり、すべての看護の基盤であり、看護にとって不可欠な領域と考える。

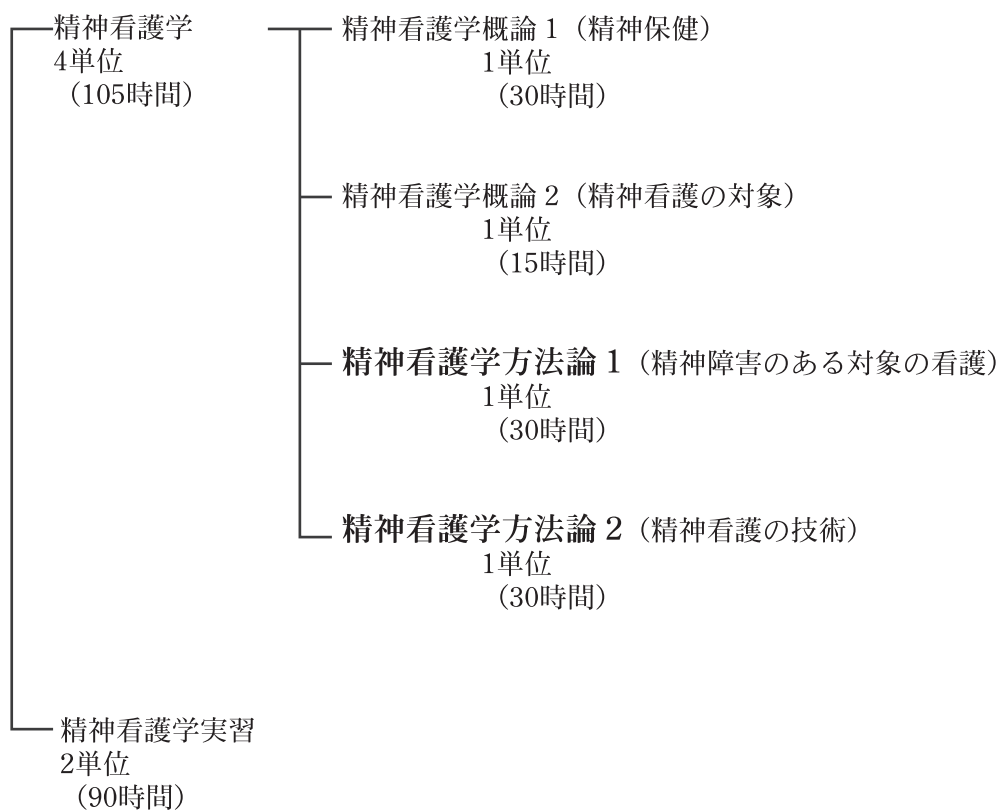
2. 目的

精神看護の対象を理解し、心の健康を保持増進するための看護及び、危機的状況にある人々や精神を病む人への看護を学ぶ。

3. 目標

- 1) 精神看護の対象を理解し、看護の果たす役割を理解する。
- 2) 精神の健康の保持増進のため、心の発達や心の健康に関連する要因を理解する。
- 3) 精神看護の展開される場と特徴と援助の方法を学び、精神保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解する。
- 4) 精神保健医療福祉体制の実際を学び、地域ケアにおける社会資源の活用方法を理解する。
- 5) 精神医療の歴史的・社会的変遷から、精神障害者への対応と人権の尊重について理解する。

4. 精神看護学の構成



精神看護学

精神看護学方法論 1 (精神障害のある対象の看護)				開講時期	4月 ～7月	単位数	1	時間数	30	
科目責任者		都留 万里子								
科目目標 精神障害のある対象の看護について理解する。										
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容						
1	赤石澤幸子	講義	精神に障害のある人の実際と看護の基本が分かる。 精神の障害が生活におよぼす影響と、対象の心理が分かる。	治療を受ける対象の看護 1. 入院治療・治療的環境 2. 対人関係モデル						
2										
3	赤石澤幸子	講義		3. 治療に伴う看護 ・薬物治療を受ける対象の看護 バーチャルセッション体験 ・精神・社会療法を受ける対象の看護 ・電気けいれん療法を受ける対象の看護						
4										
5	赤石澤幸子	講義		4. 日常生活行動の援助 5. 行動制限時の看護						
6										
7	赤石澤幸子	講義		問題行動のアセスメントと援助 1. 自殺・自殺企図・自殺行為 2. 攻撃的行動						
8	赤石澤幸子	講義								
9										
10	都留万里子		疾患のある対象の看護の基本が分かる。 主な疾患のある対象の看護 ・統合失調症（急性期・回復期・慢性期）							
11	都留万里子	講義 体験							精神に障害のある人の日常を体験する。	
12	都留万里子	講義	疾患のある対象の看護の基本が分かる。	主な疾患のある対象の看護 ・気分障害（うつ病・双極性障害） ・不安障害（パニック障害）						
13										
14	赤石澤幸子	講義		主な疾患のある対象の看護 ・アルコール依存症 ・薬物依存症 ・境界型パーソナリティ障害 ・摂食障害						
15										
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院										
参 考 図 書 精神保健福祉白書 精神保健福祉白書編集委員会 中央法規										
評 価 方 法 試験										

精神看護学

精神看護学方法論 2 (精神看護の技術)			開講時期	10月 ～ 1 月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		都留 万里子						
科 目 目 標								
1. 精神に障害のある対象の看護過程の展開について学ぶ。 2. 再構成の理論と、患者・看護師関係を発展させるための方法が理解できる。 3. 精神医療福祉チームにおける看護の役割を理解できる。								
回数	講師名	学習形態	学習目標		学習内容			
1	都留万里子	講義	精神に障害がある対象の看護過程の展開方法が理解できる。		セルフケア理論 (オレム・アンダーウッド看護モデル)			
2	都留万里子	講義 グループ ワーク			精神看護における看護過程 ペーパーシュミレーション (うつ病 急性期にある患者の看護展開)			
3								
4								
5								
6	作業療法士	講義	精神医療福祉チームの役割が分かる。		精神科における作業療法の実際			
7	都留万里子	講義 グループ ワーク	看護場面の再構成について理解できる。		再構成 再構成の理論 再構成の実際 再構成の分析の技法 自己の振り返りと自己受容			
8								
9								
10								
11	都留万里子	講義 グループワーク	精神看護におけるカンファレンスの意義が分かる。		精神看護の場面におけるカンファレンス			
12	臨床心理士	講義 演習	看護におけるカウンセリングの基本的な姿勢が分かる。		心理療法カウンセリング 精神分析的カウンセリング 認知行動療法的カウンセリング			
13								
14	濱田 淳子	講義	地域における精神看護の実際が分かる。		社会復帰時の看護 社会資源の活用			
15	濱田 淳子	講義			社会復帰と地域ケア（訪問看護・デイケア等）の実際			
使用テキスト								
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 1 精神看護の基礎 医学書院								
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 2 精神看護の展開 医学書院								
宮本眞巳 看護場面の再構成 日本看護協会出版会								
参 考 図 書								
精神保健福祉白書 精神保健福祉白書編集委員会 中央法規								
評 価 方 法								
試験、再構成課題の提出状況、看護過程の内容								

在宅看護論

1. 考え方

少子高齢社会の家族観の変化、保健医療福祉制度や施策の改正に伴い社会ニーズも変化している。在宅で自分らしく生活したいという人が増え、看護の場も地域へと拡大している。又、その人々の多様な価値観やニーズに応じた看護が求められ、社会が看護師に期待する役割は大きい。

そのため在宅看護論は地域看護学の一分野として位置づけ、地域で療養している人に限らず、地域で生活するあらゆる健康段階や発展段階にある人々を対象とし、保健医療福祉の連携を図り、地域の人々の健康の保持増進・疾病の予防に向けた看護を学ぶ。更に地域で生活しながら療養している人や在宅で終末を迎える人とその家族を理解し、生活の場でよりQOLを高められるような療養生活の援助をするための基礎的能力を養う。

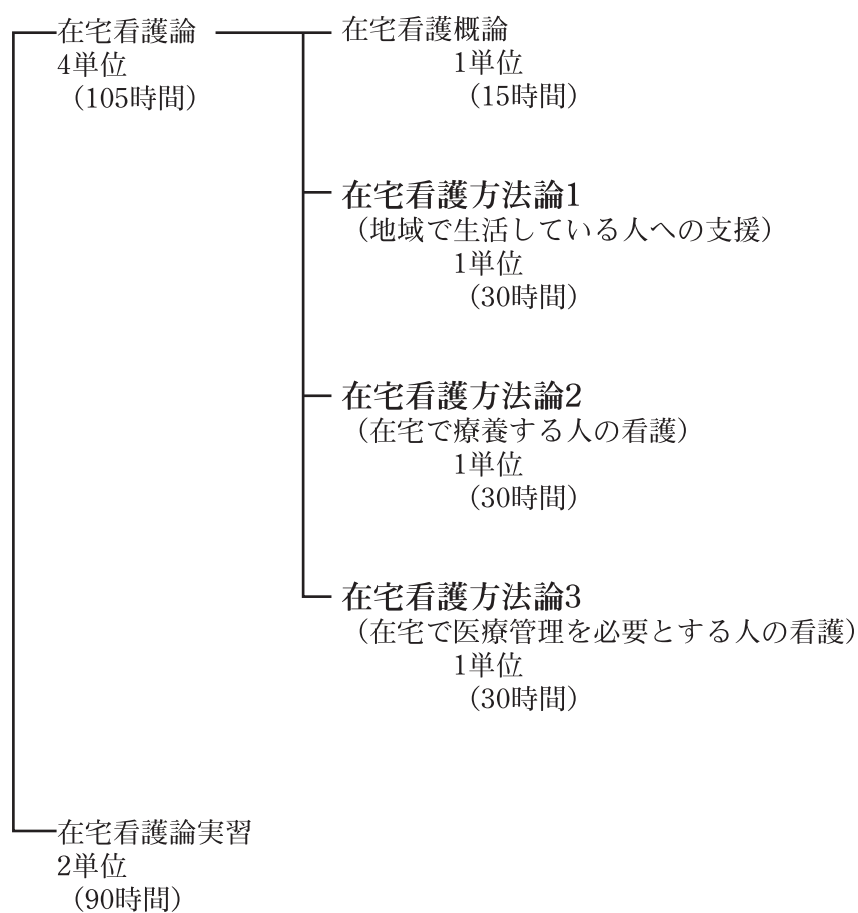
2. 目的

地域看護の対象を理解し、健康を保持増進するための看護や在宅で療養している人とその家族の看護を学ぶ。

3. 目標

- 1) 地域看護学の一分野としての在宅看護論の変遷を知り、在宅看護の必要性が理解できる。
- 2) 地域看護の対象と在宅看護の対象・特性を理解できる。
- 3) 生活の場における在宅看護の役割が理解できる。
- 4) 在宅看護に必要な日常生活・療養生活の援助ができる。
- 5) 地域における社会資源の活用について理解できる。
- 6) 在宅看護に必要な態度やマナーについて理解できる。

4. 在宅看護論の構成



在宅看護論

在宅看護方法論 1 (地域で生活している人への支援)			開講時期	4月 ～7月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		柳原 和代						
科目目標 地域で生活している人々の保健活動と在宅看護の実際を理解する。								
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容				
1	柳原 和代	講義	地域包括ケアシステムについての概要と看護職の役割を理解する。	1. 地域包括ケアシステム 1) 地域包括ケアシステムとは 2) 地域包括ケアにおける看護師の役割 3) 退院支援と医療機関と地域の連携				
2								
3								
4		講義	医療保険・介護保険・高齢者の医療の確保に関する法律に基づく訪問看護制度を理解する。	2. 在宅看護の実際 1) 在宅看護を提供する場と制度 ・在宅看護に関わる法規（介護保険・医療保険等） ・訪問看護制度				
5								
6								
7								
8		講義	在宅の訪問看護での看護師の役割を理解する。	2) 在宅看護を支える訪問看護 ・訪問看護の目的と特徴 ・訪問看護における看護師の役割と機能				
9								
10		講義	在宅看護における家族の重要性をふまえ家族を含めての看護をイメージできる	・家族介護者の理解と健康支援 家族アセスメント				
11								
12	根本 明美	講義	在宅看護の対象者の権利保障の重要性を理解する。	・対象者と家族の権利保障				
13		講義	在宅での看護過程の展開方法を理解する。	・訪問看護の展開 対象者の生活と価値観の多様性の尊重 環境や家族への視点 生活を支える制度・支援体制の理解				
14								
15		講義	地域で生活している人々の健康の保持増進・疾病の予防の看護活動を知る。	3. 地域での保健活動の実態 1) 地域の特徴と健康状態の関係 2) 地域における社会システムの実実際 ・ケアマネージメント ・保健医療福祉行政・機関 ・災害対策				
使用テキスト 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会								
参考図書								
評価方法 試験								
授業を受ける際の留意点								

在宅看護論

在宅看護方法論 2 (在宅で療養する人の看護)			開講時期	9月 ～1月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		柳原 和代						
科目目標 在宅で療養する人と家族への日常生活の援助を理解する。								
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容				
1	根本 明美	講義	在宅で療養生活を送るためにはどんな社会資源があるのか理解する。	1. 在宅で療養する人の日常生活の援助 1) 療養生活の自立を支える社会資源 ・社会資源の種類 ・社会資源の活用法(関係機関と関係職種)				
2								
3								
4	患者支援センター 看護師	講義	在宅で療養する人の日常生活を支えるための看護の役割を理解する。	・ケアマネジメントと看護の役割 (多職種との連携・協働、退院調整の実際)				
5								
6	医療ソーシャルワーカー	講義	病院から在宅への継続看護の実際を知り、退院指導の重要性を理解する。	・チームケアの重要性 (多職種との連携・協働、退院調整の実際)				
7	柳原 和代	講義	限られた環境の中で、安全・安楽に家族が負担なく行える援助を考える。	2) 清潔保持の困難な人への援助 ・在宅における療養者の清潔の特徴 ・在宅における清潔保持のための家族への支援				
8								
9	柳原 和代 他	演習	在宅で療養している人に、安全・安楽な入浴介助及び洗髪ができる。	入浴・洗髪演習				
10								
11	柳原 和代	講義	信頼関係を築くためのコミュニケーションの重要性を理解する。	3) コミュニケーション技術 ・療養者と家族とのコミュニケーション				
12		講義 ロールプレイ	事例をとおして、訪問時のマナーの必要性がわかる。	・コミュニケーションロールプレイ				
13								
14	訪問看護ステーション 看護師 吉江 悟	講義	日常生活動作の自立が難しい人が、社会資源を利用しながら療養していることを理解する。	4) 移動困難な人への援助 ・疾患から見た対象者 循環器系の疾患：脳血管疾患 神経系の疾患： ALS・パーキンソン・脊髄損傷				
15	土屋瑠美子	講義	在宅でのリハビリテーションがイメージできる。	・閉じこもり防止の援助 ・家庭におけるリハビリテーション				
使用テキスト 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会								
参考図書								
評価方法 試験 演習の参加度(到達度)								
授業を受ける際の留意点 ・ナースィングスキルを前日までに視聴し、テストをうけて演習に臨む。 ・演習は事前学習と練習を行い参加する。								

在宅看護論

在宅看護方法論 3 (在宅で医療管理を必要とする人の看護)				開講時期	10月 ～ 1 月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		柳原 和代							
科 目 目 標									
1. 在宅で医療管理を必要とする人の看護を理解する。 2. 在宅で終末期を迎える人の看護を理解する。									
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容					
1	柳原 和代	講義	在宅で栄養障害のある人への栄養摂取方法と援助を理解する。	1. 在宅で医療管理を必要とする人への看護 1) 栄養障害のある人への援助 ・在宅での経管栄養法と静脈栄養法					
2		講義	在宅での経管栄養法の実際と援助を理解する。	・在宅での経鼻経管栄養と胃瘻の実際 ・経管栄養法をしている人への援助					
3		講義	在宅での中心静脈栄養法の実際と援助を理解する。	・在宅中心静脈栄養法の実際 ・在宅中心静脈栄養法をしている人への援助					
4	柳原 和代	演習	在宅で療養している人に安全、安楽な方法で経管栄養法の援助ができる。	経鼻経管栄養法					
5	他								
6	小幡 慶子	講義	在宅での排泄管理の実際を理解する。	2) 排泄困難な人への援助 ・摘便 ・膀胱留置カテーテル					
7	中山 久江	講義	在宅で呼吸障害のある人への在宅での酸素療法の方法を理解する。	3) 呼吸障害のある人への援助 ・在宅酸素療法 ・在宅人工呼吸療法					
8									
9		演習	在宅酸素療法の実際を理解する。	・在宅酸素療法の実際					
10		講義	在宅で酸素療法をしている人への援助を理解する。	・在宅酸素療法をしている人への援助					
11		柳原 和代	講義	在宅で療養している人の感染予防の対策を理解する。	4) 感染予防 ・感染に対するアセスメント ・感染予防対策 ・特定感染症への対策				
12	根本 明美	講義	在宅で終末期を迎える人の援助を理解する。	2. 在宅で終末期を迎える人の看護 1) 死を迎える療養者と家族への援助 ・死への準備教育（死後の処置）					
13	がん相談支援センター看護師	講義	在宅での看取りに向けて調整の実際を知る。	・チーム医療 慈恵柏病院 がん相談支援センターの役割					
14	訪問看護ステーション看護師	講義	在宅での看取りの実際がイメージできる。	2) がんの痛みのコントロール ・身体的、精神的、社会的、霊的苦痛 3) 症状コントロール 4) ホスピス 5) 死後のケア ・家族支援					
15	吉江 悟								
使用テキスト 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会									
参考図書									
評 価 方 法 試験 演習の参加度（到達度）									
授業を受ける際の留意点 ・ナースングスキルを前日までに視聴し、テストをうけて演習に臨む。 ・演習は事前学習と練習を行い参加する。 ・在宅での看取りの講義には、ナースングスキルの死後のケア（エンゼルケア）を視聴してから講義にのぞむ。									

看護の統合と実践

1. 考え方

我が国の看護をめぐる環境は、急速な少子高齢化社会への進展、医療技術の進歩等大きく変化しており、看護職員にはより患者の視点に立った質の高い看護の提供が求められる。一方で看護業務の複雑・多様化、国民の医療安全に対する意識の向上等の中で、学生の看護技術の実習範囲や機会が限定される傾向にある。

そこで、看護基礎教育の集大成として位置づける統合分野の中にあって、臨床の「場」を設定し、対象の状況に応じて既習の知識・技術を引き出し、統合し、実践することを期待して「看護の統合と実践」を位置づけた。

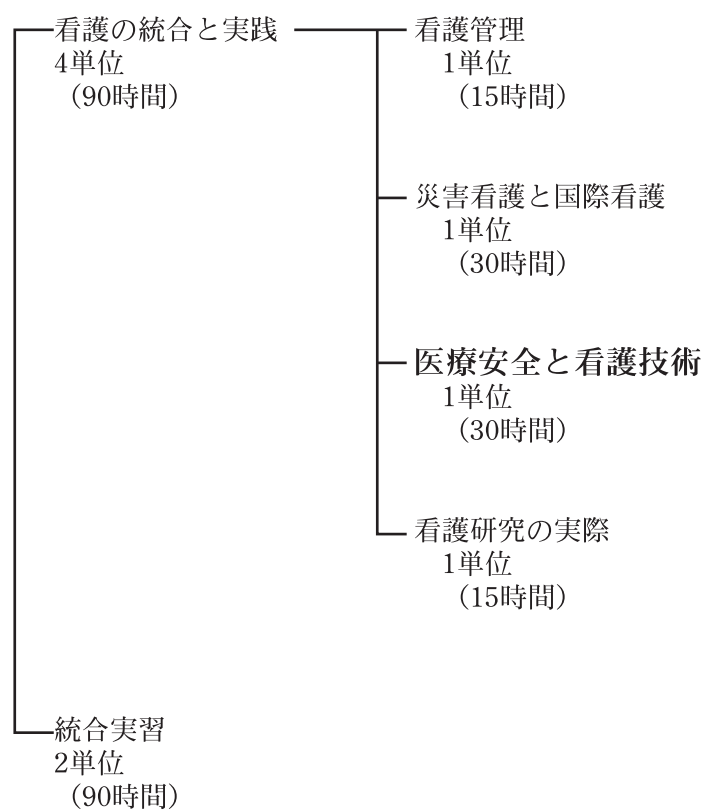
2. 目的

基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱで学習した知識・技術を統合し看護実践能力の向上をはかる。

3. 目標

- 1) 看護の対象となる人々に最も有効で良質な看護を提供するため管理について理解を深める。
- 2) 災害が人々の生命や生活に影響を及ぼすことを理解し、看護が果たす役割を理解する。
- 3) グローバルな視野で世界の健康について考え、諸外国の健康問題を理解することで、国際看護活動を理解する。
- 4) 医療安全に関する基礎的知識を学び、医療事故予防の理解が深められる。
- 5) 対象の状況に応じた看護技術を習得する。
- 6) 看護研究に取組み、看護を深く追求する態度を養う。

4. 看護の統合と実践の構成



看護の統合と実践

医療安全と看護技術				開講時期	9月 ～1月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		高橋 真喜・中尾みさ子							
科目目標									
1. 医療事故の背景、発生要因を知り、事故防止や発生時の対応について理解する。 2. 対象の状況に応じた安全安楽な看護技術を選択し、実施する。									
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容					
1	中尾 みさ子	講義	人間の行動とヒューマンエラーを理解する。	1. ヒューマンエラーとは 2. 人間の行動特性 3. ヒューマンエラーの発生メカニズム 4. 看護職と医療安全					
2		講義	医療安全の取り組みの歴史を学び、安全管理の考え方、必要性を理解する。	1. 医療安全の取り組みの動向 1) 日本の医療安全対策推進の背景 2) 組織の医療安全対策 2. 医療安全に関する基礎事項 1) 医療事故、医療過誤、医療紛争 2) アクシデント、インシデント、ヒヤリ・ハット 3) チーム医療と医療安全 テクニカルスキル／ノンテクニカルスキル Team STEPPS（チームステップス） 4) スイスチーズモデル 3. 看護事故防止の考え方					
3		講義	セーフティマネジメントの考え方、プロセスと実際を理解する。事例から医療安全を学ぶ。	1. セーフティマネジメント 2. 危険予測スキルトレーニング 1) あらゆる看護行為に潜むヒヤリ・ハット					
4	医療安全 推進室 看護師	講義	医療事故の種類と発生要因を理解する。	1. 療養上の世話に伴う医療事故 1) 転倒・転落事故防止 2) 入浴中の事故防止 3) 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因					
5		講義		2. 診療の補助業務に伴う医療事故 1) 注射業務 2) 内服与薬業務 3) チューブ管理					
6	感染管理 認定看護師	講義	感染対策の基礎知識を理解する。	1. 基本的な医療関連の感染予防対策 1) 標準予防策 2) 感染経路別予防策 3) 職業感染防止					
7	臨床工学士	講義	医療事故につながりやすい医療機器の取り扱いがわかる。	1. 医療機器に関する基礎知識 2. 医療機器の事故の現状 3. 事故防止に向けて					
8	足利 裕子 他	演習		1. 輸液ポンプ、シリンジポンプの正しい取扱い 2. アラーム発生時の初期対応					

9	卯津羅雅彦 消防士 救急救命士 足利裕子他	演習	医療従事者による一次救命処置（BLS）を身につける。	1. 医療従事者による一次救命処置（BLS：Basic Life Support） 2. 自動体外式除細動器（AED）の使い方
10	中尾みさ子	講義	医療事故発生時の対応ができる。	1. 医療事故発生時の対応 1) 患者の安全の確保と救命処置 2) 状況の正確な把握と報告・記録 3) 患者・家族への対応 4) インシデント報告と事故報告 2. 看護学生の実習と安全
11	高橋 真喜	講義	事例の状況に応じた看護を考え、安全に看護技術を実施する。	1. 看護技術の構成要素 対象の状況に応じた安全・安楽な看護技術 2. 事例と看護技術
12	高橋 真喜 他	演習		1. 事例に応じた看護技術の実践 1) 事例① 2) 事例② 3) 事例③ 2. 自己の振り返りとグループ討議 3. グループ発表 4. 全体のまとめ
13				
14		グループワーク		
15		発表 まとめ		
使用テキスト 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践② 医療安全 医学書院				
参考図書・参考映像 セーフティマネジメントマニュアル（携帯版） 東京慈恵会医科大学附属柏病院 実習前に必ず見よう！事例で学ぶヒヤリ・ハット vol.1 あらゆる看護行為に潜むヒヤリ・ハット 医学映像教育センター				
評価方法 試験、講義、グループワークの参加状況、課題提出状況				
授業を受ける際の留意点				

3 年 次

(34期生)

基礎分野

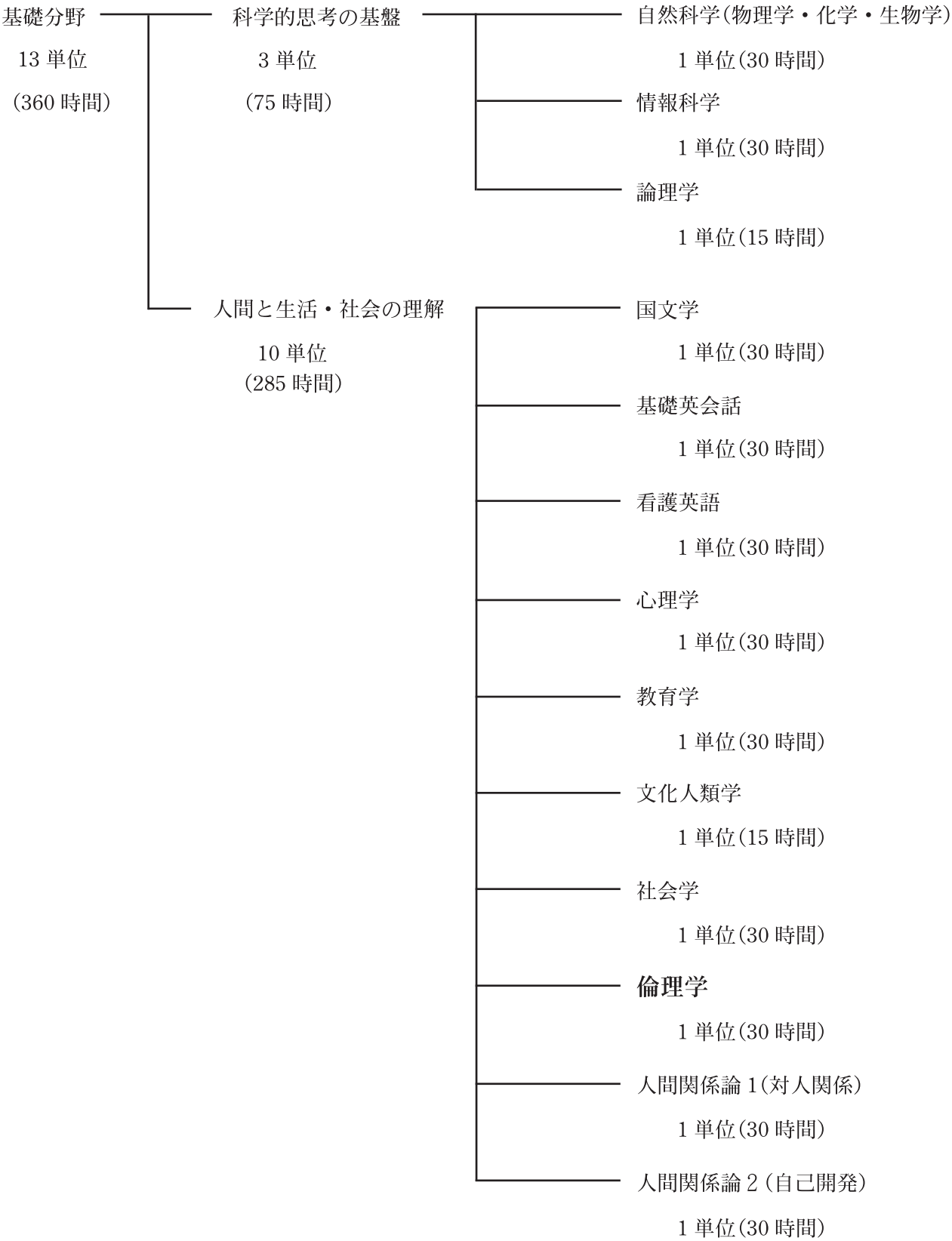
1. 目的

- 1) 科学的・論理的思考の基礎を養い、自ら学習する能力を育てる。
- 2) 人間と生活・社会を理解し、豊かな感性と共に自らが人間として成長する基礎を養う。

2. 目標

- 1) 看護に応用できる科学的思考の基礎を理解する。
- 2) 国際化・情報化社会に対応できる能力を養う。
- 3) 論理的思考の基礎を養う。
- 4) 人間の成長発達に伴う変化、教育の意義を理解する。
- 5) 世界の文化、社会、価値観を理解する。
- 6) 日本の社会、家族を理解する。
- 7) 生命の尊厳、人権を理解する。
- 8) 人間関係の基礎的理論を学び、自己理解を深める。

3. 基礎分野の構成



人間と生活・社会の理解

倫理学		開講時期	4月 ～12月	単位数	1	時間数	30
科目責任者		近藤 隼人					
科目目標		医療現場における倫理的な諸問題について、多元的で柔軟な視点の獲得ということに重点をおいて探究する。					
回数	講師名	講義内容					
1	近藤 隼人	1. 医療倫理と看護倫理の基本理念					
2		2. 生殖医療の現状と問題					
3		3. 生命を選択する権利					
4		4. 意思決定の難点 ー死のあり方をモデルとしてー					
5		5. 個人情報の扱いとインフォームド・コンセント再考					
6		6. 倫理学の果たす意義					
7	ジッリオ・ エマヌエーレ・ ダヴィデ	7. 「技術の時代」と多様化していく倫理 ーテクノロジーの発展とこれまでの価値観の崩壊を中心にー					
8		8. 「いのち」を考える生命倫理 ー生命倫理の基準と「自律」の限界から「Narrative Approach」と「三元論」へー					
9		9. 現在の生殖医療の一側面 ー人体の「解放」から人体の「資本化」および「商品化」へー					
10		10. 看護の本質とは何か ー居心地の良い看護から国際看護へー					
11		11. 国際的環境におけるヘルスケア ー世界の医療文化から効果的コミュニケーション方法の条件とワザまでー					
12		12. 科学における「身体」vs 私たちの「生きた身体」 ープラトンからデカルトを通して現象学の提案までー					
13	三浦 靖彦	臨床倫理					
14		・ 今なぜ臨床倫理が必要か					
15		・ Jonsen の 4 分割表の活用 ・ リビング・ウィルとアドバンス・ケア・プランニング					
使用テキスト 資料を配付する							
評価方法 レポート他							

専門基礎分野

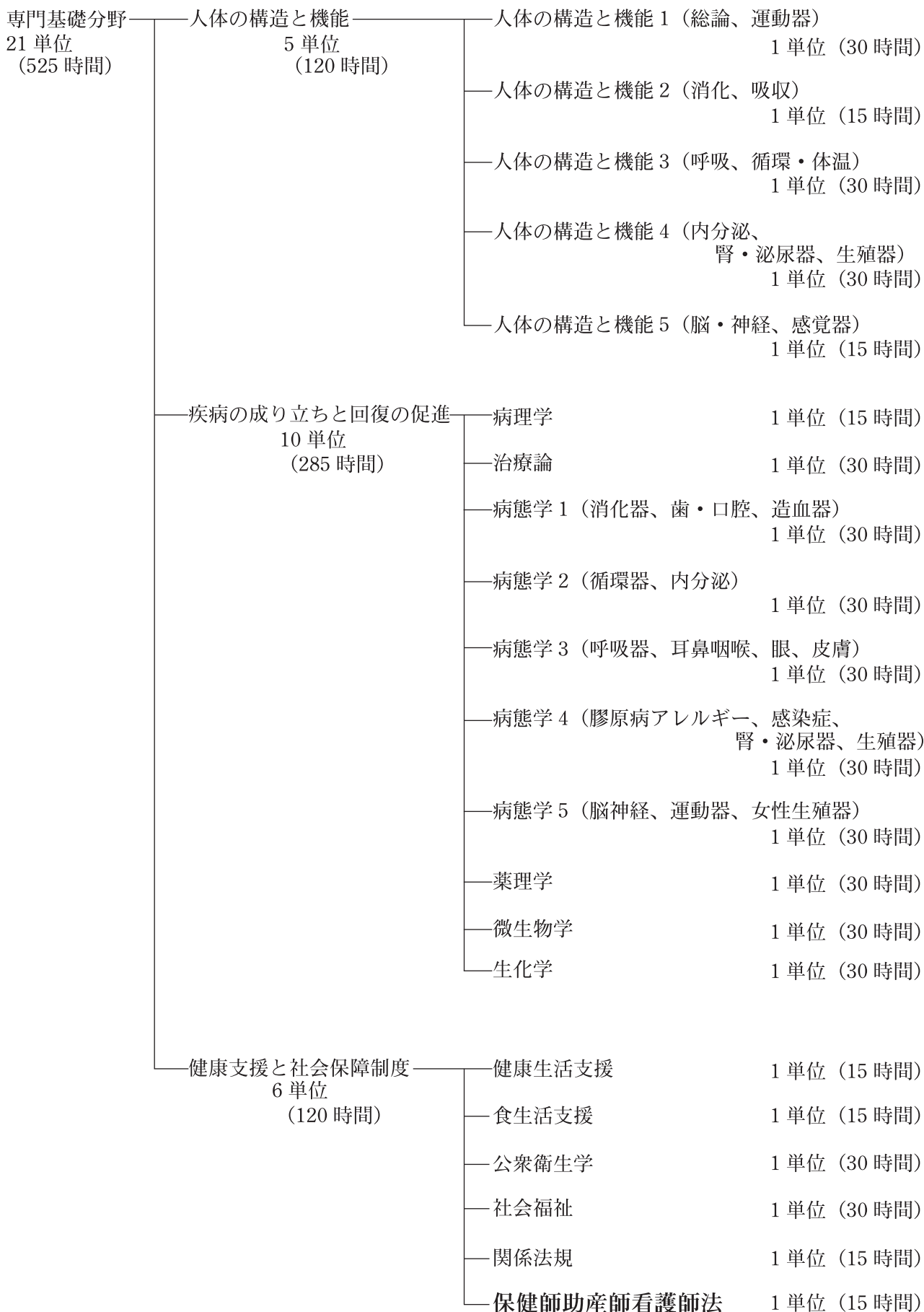
1. 目的

- 1) 日常生活行動を営むための人間の生命現象の基礎を理解する。
- 2) 生活との関連において、健康から疾病にいたる変化のプロセスと回復のメカニズムを理解する。
- 3) 人々の健康や障害の状態に応じた社会保障制度を理解する。

2. 目標

- 1) 人体の発生と構成、形態と機能を理解する。
- 2) 人体の構成成分や代謝を理解する。
- 3) 病因と病変の特徴と、系統別疾患の病態、治療、検査について理解する。
- 4) 薬物の特徴、作用機序、人体への影響を知り、臨床薬理の実際を理解する。
- 5) 微生物の特徴と人体に及ぼす影響を理解する。
- 6) 各栄養素の栄養的意義と臨床栄養の実際を理解する。
- 7) 公衆衛生の諸統計と保健活動を理解する。
- 8) 保健医療福祉の動向・制度を理解する。
- 9) 医療従事者に関する関係法規を知り、医療従事者としての義務と責任を理解する。

3. 専門基礎分野の構成



健康支援と社会保障制度

保健師助産師看護師法		開講時期	9月 ～2月	単位数	1	時間数	15
科目責任者		佐々木 郁子					
科目目標		1. 保健師助産師看護師法を学び看護職の責務を理解する。 2. 看護師等の人材確保に関する法律、医療法や関連職種を規定する法律を理解する。 3. 医療事故と医療過誤を防ぐための看護のあり方を理解する。					
回数	講師名	講義内容					
1	佐々木郁子	1. 保健師助産師看護師法を学ぶ意義					
2		2. 「保健師助産師看護師法」成立の経緯・変遷 1) 保健師助産師看護師法成立以前の規則 2) GHQによる改革					
3		3. 保健師助産師看護師法に基づく看護師の職務 1) 保健師助産師看護師法の目的 2) 看護師の定義 3) 保健師助産師看護師法と政令・省令 4) 資格・業務 5) 看護師の免許 6) 看護師国家試験 7) 守秘義務					
4							
5		4. 「看護師等の人材確保の促進に向けた法律」の意義と目的 1) 「看護職の人材確保に向けた法律」成立の背景 2) 保健師助産師看護師法と人材確保法との関連					
6		5. 他の法律制度改定による看護業務の拡大					
7		6. 医療法と関連職種を規定する法律 1) 医療法の目的と規定内容 2) 関連職種を規定する法律					
8		7. 医療過誤をとらえて考える業務の範囲 1) 医療事故等の定義と種類 2) 看護行為における安全安楽の保障 3) 医療行為の法規制 4) 看護業務における注意義務					
使用テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度（4）看護関係法令 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学（1）看護学概論 医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践（2）医療安全 医学書院							
評価方法 試験							

看護の統合と実践

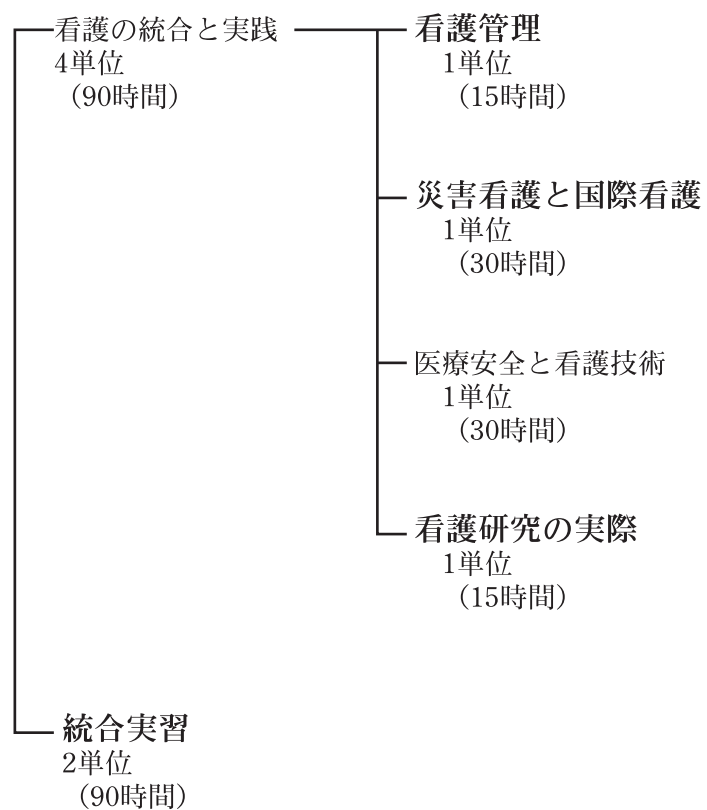
1. 目的

基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱで学習した知識・技術を統合し看護実践能力の向上をはかる。

2. 目標

- 1) 看護の対象となる人々に最も有効で良質な看護を提供するため管理について理解を深める。
- 2) 災害が人々の生命や生活に影響を及ぼすことを理解し、看護が果たす役割を理解する。
- 3) グローバルな視野で世界の健康について考え、諸外国の健康問題を理解することで、国際看護活動を理解する。
- 4) 医療安全に関する基礎的知識を学び、医療事故予防の理解が深められる。
- 5) 対象の状況に応じた看護技術を習得する。
- 6) 看護研究に取組み、看護を深く追求する態度を養う。

3. 看護の統合と実践の構成



看護の統合と実践

看護管理			開講時期	4月 ～11月	単位数	1	時間数	15
科目責任者		佐々木 郁子						
科 目 目 標								
1. 組織における看護職の役割を理解し、より良い看護実践のための看護管理の必要性を学ぶ。 2. 患者満足度を高める環境づくりや、看護サービスの管理について理解を深める。								
回数	講師名	学習形態	学習目標		学習内容			
1	佐々木郁子	講義	看護におけるマネジメントを理解する		1. 看護管理とは 1) 組織とマネジメント 2) マネジメントのプロセス 2. ケアのマネジメント 1) 看護におけるマネジメントの考え方 （1）看護基準と看護手順 （2）看護ケア提供システム （3）他職種との協働 （4）情報の管理 3. 看護サービスのマネジメント 1) 看護サービスのマネジメントの対象と範囲 2) 組織目的達成のためのマネジメント 3) 看護ケア提供システムと看護単位 4) 人事労務管理 5) 物的資源管理 4. 医療制度と看護への評価 1) 医療保険制度と支払いシステム 2) 診療報酬システム 3) 看護サービスへの評価			
2		講義						
3	看護部師長	講義			5. 看護サービスのマネジメントの実際 1) 病院の組織と職種 2) 看護部組織と職務 3) 看護体制 4) 看護単位の運営 （1）リーダーシップとメンバーシップ （2）師長・主任の役割 5) ケア及びサービスのマネジメントの実際			
4		講義						
5		講義						
6	佐々木郁子	講義	看護職の教育制度とキャリア形成について理解する		6. わが国における看護教育制度 1) 看護基礎教育と看護管理上の課題 2) 継続教育と卒後教育 3) 専門看護師、認定看護師、認定看護管理者 4) 看護職者のキャリア開発			
7	佐々木郁子	講義	看護倫理を理解する		7. 看護と倫理 1) 現代の医療と倫理 2) 専門職の倫理規定 3) 倫理の原則 4) わが国における倫理の源 5) 看護場面における倫理上の問題			
8								

使用テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学（１） 医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践（１） 医学書院 公益社団法人日本看護協会出版会監修 新版 看護者の基本的責務 日本看護協会出版会
参考図書
評価方法 試験
授業を受ける際の留意点

看護の統合と実践

災害看護と国際看護			開講時期	3年次 通年	単位数	1	時間数	30
科目責任者		佐々木 郁子						
科 目 目 標								
1. 災害が人々の生命や生活に影響を及ぼすことを理解し、看護が果たす役割を理解する。								
2. 国際的な視野から健康課題や看護問題、国際看護活動について理解し、看護の国際協力の実際や日本における多文化共生と看護の役割について考える。								
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容				
1	挟間しのぶ	講義	【災害看護】 災害及び災害看護に関する基礎的知識がわかる	1. 災害・災害看護の定義と歴史 2. 災害サイクル 3. 災害の種類と被害の特徴				
2								
3			災害発生時の社会の対応やしぐみ、個人の備えがわかる	1. 災害に関連する制度 2. 情報伝達体制 3. 国際的支援の仕組み 4. 災害マネジメントと関係機関の支援体制 5. 個人の備えや災害ボランティア				
4			災害が人々の生命や生活に及ぼす影響、被災者と救助者の心のケアを学ぶ	1. 災害時の地域アセスメント 2. 災害種類別疾患の特徴 3. 災害時の被災者および援助者の心理（心理回復プロセス・PTSR・PTSD）				
5								
6			災害時に看護が果たす役割がわかる	1. 災害看護の基本的考え方と看護の役割 2. 災害各期における看護活動、保健衛生管理 3. 災害時に必要な技術 1) CPR 2) トリアージ 4. 避難所・仮設住宅・復興住宅での看護 5. 被災者特性に応じた看護 子どもへの看護 妊産褥婦への看護 高齢者への看護				
7								
8								
9	卯津羅雅彦 ICLS インストラクター	演習	【ICLS演習】 救命の連鎖を理解する 一次救命処置ができる 二次救命処置の概念を理解し心肺停止やその他の心血管エマージェンシーの処置技術を身につける	1. 一次救命処置（CPRとAED） 2. 二次救命処置（ACLS）の概念 3. 心肺停止やその他の心血管エマージェンシーの処置技術				
10								

回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容
11	小島毬奈	講義	【国際看護】 国際看護を学ぶ意義を理解する グローバルヘルスの現状と課題 を理解する	1. 国際看護とは 2. グローバルヘルスとは 1) 国際看護と国際保健 2) プライマリヘルスケアとヘルスプロ モーション 3) 持続可能な開発目標（SDGs）
12	小島毬奈	講義	国際機関の役割や国際保健政策 を理解する	3. 国際協力のしくみ 1) 政府開発援助 2) 国際機関 3) 非政府組織
13	小島毬奈	講義	国際看護活動について理解し、 看護の国際協力の実際や日本に おける多文化共生と看護の役割 について考える	4. 国際看護活動の実際 1) 開発途上国における国際看護の実際 2) 世界における災害と難民の現状と国際 救援の看護の実際
14	小島毬奈	講義		
15	山本裕子	講義		3) 在日外国人の看護の実際
使用テキスト 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践（3）災害看護学・国際看護学 医学書院 随時、資料を配布する。				
参考図書 国際看護研究会編：国際看護学入門 医学書院 南裕子監修：国際看護学 グローバルナースングに向けての展開 中山書店				
評価方法 参加度、試験で評価する。				

看護の統合と実践

看護研究の実際				開講時期	4月 ～9月	単位数	1	時間数	15
科目責任者		中尾 みさ子							
科目目標									
1. 看護研究のプロセスを理解し、ケーススタディが実施できる。 2. 自分の実施した看護を明らかにし、文献を活用して振り返ることができる。 3. 他者の研究成果を共有し、多様な看護実践を学ぶ。									
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容					
1	中尾みさ子	講義	1. 看護研究におけるケーススタディの位置づけがわかる。 2. ケーススタディの目的・進め方が理解できる。	1. ケーススタディとは 2. ケーススタディの意義 3. ケーススタディの対象・種類 4. ケーススタディのための倫理的配慮					
2		講義	3. 研究計画の必要性和方法が理解できる。 4. ケーススタディの実施、まとめ方と発表の方法が理解できる。 5. 臨地実習を通してケーススタディをおこなう指標を得る。	5. 研究計画書の書き方 6. ケーススタディのまとめ方 7. ケーススタディのすすめ方					
3									
4	中尾みさ子 他	教員 個別指導	6. 研究計画に基づき計画的にケーススタディを進めるための示唆を得る。	8. ケーススタディの実際 ・研究計画の確認と修正 ・参考文献の選択					
5			7. ケーススタディが実施できる。	・進行状況に応じた今後の計画の修正 ・ケーススタディの内容の確認と修正 ・参考文献の活用					
6									
7		発表	8. ケーススタディが発表できる。	9. ケーススタディの発表 10. 発表会の参加と質疑応答					
8			9. 他者の発表を聞き、多様な看護実践を学ぶ。						
使用テキスト									
松本孚 森田夏実 編集：看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 新版 照林社									
参考図書									
李節子：看護研究ころえ帳 第3版 研究の基本からプレゼンテーションまで 医歯薬出版株式会社									
評価方法									
ケーススタディの実際のプロセス、出席、提出論文の内容、発表による									
授業を受ける際の留意点									
テキストを事前に読んで授業に臨むこと 基礎看護学「看護研究」の資料・ノート持参、内容の復習をする。									

Ⅲ. 臨地実習講義概要

基礎看護学実習 2		開講時期	2 年次 11 月	単位数	2	時間数	90
I. 目的 1. 科学的思考のプロセスを用いて、看護計画を立案し、対象への看護を実施する。							
II. 目標 1. 対象との関係を、維持・発展していくことができる。 2. 対象の基本的ニーズを把握し、アセスメントする。 3. 目標を設定し、計画を立案する。 4. 対象への援助を適切に実施する。 5. 対象への看護活動を評価する。							
実習評価 出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。							
学習上の留意点 この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。 看護援助論 3 看護援助論 4 看護援助方法論 2 基礎看護学実習 1 臨床看護総論							

成人看護学実習 1 (健康障害のある人の看護)		開講時期	2 年次 1 月～2 月	単位数	2	時間数	90
I. 目的 成人期の特徴をふまえ、健康障害のある対象に応じた看護を実践する能力を養う。							
II. 目標 1. 成人の特徴をふまえ、健康障害のある対象の特徴を理解できる。 2. 健康障害のある対象の看護上の問題を抽出できる。 3. 健康障害のある対象の看護上の問題に応じた目標を設定できる。 4. 健康障害のある対象に応じた看護が実践できる。 5. 看護活動の評価ができる。 6. 医療チームメンバーの一員としての役割がわかる。							
実習評価 出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。							
学習上の留意点 この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。 基礎看護学実習 2 成人看護学概論 成人臨床看護							

成人看護学実習 2 (生命の危機的状況にある人の看護)		開講時期	3 年次 5 月～10 月	単位数	2	時間数	90
I. 目的							
生命の危機的状況にある人を理解し、対象に応じた看護が実践できる。							
II. 目標							
1. 生命の危機的状況にある人の特徴を理解できる。							
2. 生命の危機的状況にある人の看護上の問題を抽出できる。							
3. 生命の危機的状況にある人の看護上の問題に応じた目標を設定できる。							
4. 生命の危機的状況にある人に応じた看護が実践できる。							
5. 看護活動の評価ができる。							
6. 保健医療福祉メンバーの役割と連携の必要性を理解できる。							
実習評価							
出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。							
学習上の留意点							
この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。							
基礎看護学実習 2		成人看護学方法論 1					
成人看護学概論		成人看護学方法論 2					
成人臨床看護		成人看護学方法論 3					
		成人看護学方法論 4					

成人看護学実習 3 (疾病コントロールが必要な人の看護)		開講時期 3 年次 5 月～10 月	単位数 2	時間数 90
I. 目的				
疾病コントロールが必要な人を理解し、対象に応じた看護が実践できる。				
II. 目標				
1. 疾病コントロールが必要な人の特徴を理解できる。				
2. 疾病コントロールが必要な人の看護上の問題を抽出できる。				
3. 疾病コントロールが必要な人の看護上の問題に応じた目標を設定できる。				
4. 疾病コントロールが必要な人に応じた看護が実践できる。				
5. 看護活動の評価ができる。				
6. 保健医療福祉メンバーの役割と連携の必要性を理解できる。				
実習評価				
出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。				
学習上の留意点				
この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。				
基礎看護学実習 2		成人看護学方法論 1		
成人看護学概論		成人看護学方法論 2		
成人臨床看護		成人看護学方法論 3		
		成人看護学方法論 4		

老年看護学実習 1 (健康障害のある高齢者の看護)		開講時期	2 年次 1 月～2 月	単位数	2	時間数	90
I. 目的 健康障害のある高齢者に応じた看護を実践する能力を養う。							
II. 目標 1. 加齢による身体的、精神的、社会的変化をふまえ、健康障害のある高齢者を理解できる、 2. 高齢者と適切なコミュニケーションが図れる。 3. 健康障害のある高齢者の看護上の問題が抽出できる。 4. 健康障害のある高齢者の目標を設定し、計画を立案できる。 5. 健康障害のある高齢者に応じて日常生活を整えることができる。 6. 看護活動の評価ができる。 7. 医療チームメンバーの一員としての役割がわかる。							
実習評価 出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。							
学習上の留意点 この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。 基礎看護学実習 2 老年看護学概論 老年看護学方法論 1							

老年看護学実習 2 (さまざまな健康段階にある高齢者の看護)		開講時期	3 年次 5 月～10 月	単位数	2	時間数	90
I. 目的 さまざまな健康段階にある高齢者の看護が実践できる。							
II. 目標 1. 健康障害のある高齢者を理解できる。 2. 健康障害のある高齢者の看護上の問題が抽出できる。 3. 健康障害のある高齢者の目標を設定し、計画を立案できる。 4. 健康障害のある高齢者の尊厳や QOL をふまえた看護を実施できる。 5. 看護活動の評価ができる。 6. 保健医療福祉メンバーの役割及び連携の必要性が理解できる。							
実習評価 出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。							
学習上の留意点 この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。 基礎看護学実習 2 老年看護学概論 老年看護学方法論 1 老年看護学方法論 2 老年看護学方法論 3							

小児看護学実習		開講時期	3 年次 5 月～10 月	単位数	2	時間数	90
I. 目的							
小児期にある対象の成長発達段階を理解し、健康障害のある子どもに応じた看護が実践できる能力を養う。							
II. 目標							
1. 子どもの成長発達段階を理解する。							
2. 健康障害のある子どもの看護上の問題を抽出し目標設定できる。							
3. 健康障害のある子どもの看護が実践できる。							
4. 看護活動の評価ができる。							
5. 子どもの安全を守るための援助を理解する。							
6. 子どもをとりまく保健医療福祉メンバーの役割と連携の必要性がわかる。							
実習評価							
出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。							
学習上の留意点							
この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。							
基礎看護学実習 2		小児看護学方法論 1					
小児看護学概論		小児看護学方法論 2					
		小児看護学方法論 3					

母性看護学実習		開講時期	3 年次 5 月～10 月	単位数	2	時間数	90
I. 目的							
周産期にある母子とその家族を理解し、対象に応じた看護が実践できる能力を養う。							
II. 目標							
1. 母性看護の対象を理解する。							
2. 周産期にある対象への生活に根ざした看護を実践する。							
3. 周産期の看護を通して母性を取りまく保健医療福祉チームの役割と連携を理解する。							
実習評価							
出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。							
学習上の留意点							
この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。							
基礎看護学実習 2		母性看護学方法論 1					
母性看護学概論		母性看護学方法論 2					
		母性看護学方法論 3					

精神看護学実習		開講時期	3 年次 5 月～10 月	単位数	2	時間数	90
I. 目的							
精神に障害のある人を理解し、精神の健康を回復するための看護を実践する能力を養う。							
II. 目標							
1. 精神が障害された人を理解できる。							
2. 精神が障害された人とコミュニケーションがとれる。							
3. セルフケア能力を査定し、看護目標の設定ができる。							
4. 精神が障害された人への日常生活の援助ができる。							
5. 保健医療福祉メンバーの役割を学びチーム連携の実際が理解できる。							
6. 精神を障害された人との関わりを通して、自己の振り返ることができる。							
実習評価							
出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。							
学習上の留意点							
この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。							
基礎看護学実習 2		精神看護学方法論 1					
精神看護学概論 1		精神看護学方法論 2					
精神看護学概論 2							

在宅看護論実習		開講時期	3 年次 5 月～10月	単位数	2	時間数	90
I. 目的 地域で生活している人々ならびに生活の場で療養している人と家族を理解し、地域における看護の実際を学ぶ。							
II. 目標 1. 地域で生活している人々の健康の保持増進・疾病の予防への援助活動を知る。 2. 生活の場で療養している人とその家族を理解する。 3. 生活の場で療養している人の訪問看護の実際を理解する。 4. 地域で活動している看護職の役割を理解する。 5. 保健医療福祉チームの活動をとおして多職種の役割および連携を理解できる。							
実習評価 出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。							
学習上の留意点 この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。 基礎看護学実習 2 在宅看護概論 在宅看護方法論 1 在宅看護方法論 2 在宅看護方法論 3							

統合実習		開講時期	3 年次 11月～12月	単位数	2	時間数	90
I. 目的							
チーム医療における看護の役割を認識し、知識・技術・態度を統合して、実務に即した能力を養う。							
II. 目標							
1. 複数の対象の援助を優先順位を考慮して実施できる。							
2. 看護チームのメンバー及びリーダーの役割を理解できる。							
3. 患者の 24 時間の療養生活を支える看護の実際について理解できる。							
4. 看護管理の実際がわかる。							
5. 様々な対象の状況に合わせた看護技術を習得できる。							
6. 自己の課題を明らかにし看護観を深められる。							
実習評価							
出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。							
学習上の留意点							
この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。							
基礎看護学実習 2		老年看護学実習 1		精神看護学実習			
成人看護学実習 1		老年看護学実習 2		在宅看護論実習			
成人看護学実習 2		小児看護学実習					
成人看護学実習 3		母性看護学実習					